2020年度 青森大学活動報告誌

青森大学の窓

Contents

01 はじめに
07 TOPICS
14 各部局の活動
36 部活動・クラブ活動の主な記録
38 学部の活動
86 東京キャンパス
89 資料編
115 青森大学ルネッサンス基金のご案内

薬学部薬用植物フォトコンテスト優勝作品

チャイブ　学名：Allium schoenoprasum　英名：chives　ヒガンバナ科 / ネギ属

2021年9月30日発行

はじめに

青森大学活動報告誌『青森大学の窓』発刊に寄せて

今般、これまでの青森大学ニュース（2018 年まで発刊）に変えて、本学の多様な利害関係者に向けて活動報告誌『青森大学の窓』を発刊することといたしました。本誌は、本学が行っている多様な活動や成果について利害関係者の皆様にお知らせすることを通じて、皆様とのコミュニケーションを活性化しながら、本学の理念やビジョンの実現を促し、地域に愛される大学となるためのコミュニケーション手段の一つであります。本誌をお読みいただいた後、同封いたしましたアンケートにて皆様の率直なご意見をお伺いできますようお願い申し上げます（なお、青森大学のホームページでもご回答が可能となっております）。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により全国の教育機関もその対応に追われた年度でありました。青森大学は、大学運営会議においていち早く「新型コロナウイルス感染症対策タスクフォース」の設置（その後は危機対策本部内で活動）を決め、2 月 28 日（金）には全学的なコロナに対する対応方針を発出しております。2019 年度の学位授与式についても、タスクフォースの議論を通じて方針を設定し、無事、挙行することができました。2020 年度の入学式については、タスクフォースの議論に基づいて残念ながら中止といたしましたが、オリエンテーションについては対策指針に基づいて対面で実施し、併行して遠隔授業の準備（遠隔授業の環境調査や対面から遠隔への講義変更準備等）を進め、予定より開講は 2 週間遅れましたが 4 月 27 日（月）から全学的に授業（遠隔授業）をスタートすることができました。その後は、コロナ禍の状況に対応して、危機対策本部を開催し、対面授業か遠隔授業かの方針を決め、ハイブリッドにて予定の授業を実施することができました。そして、2020 年度の学位授与式についても、混乱なく挙行することができました。

学長　金井　一賴

青森大学ビジョン2018

ここでは、2018 年に学長に就任した際に掲げた「青森大学ビジョン 2018」を紹介し、改革の方向性と現状について説明いたします（ビジョンについては、ホームページや 2018 年の大学ニュースにおいても掲載）。

全国の多くの私立大学において定員充足ができない状況が生じております（40％弱の大学で定員割れを起こしている）。今後、18 歳人口は減少し続けることが想定されており、大学進学率が多少増加したとしても、私立大学の経営が難しい局面に立たされることは否定できません。競争戦略的に見ると、大学は、市場の需要が減少するにもかかわらず、撤退者がほとんど出ない、競争環境に直面していると考えられます。このような困難を乗り越え、輝ける大学となるためには、大学教育の価値創造に向けた変革を起こし、時代の流れやニーズを的確に捉えた経営が不可欠です。

青森大学は、これまで苦しい時期を経験し、青森山田学園理事長のリーダーシップのもと、その苦難の時期を乗り越えてきていますが、今後さらに、環境の急激な変化に対応した大幅な変革を実施することが必要です。そのためには、高校生や保護者に理解しやすい、個性豊かな、尖った大学づくりが求められます。個性豊かな大学づくりを目指して、各学部がコラボレートしながら、それぞれの教育目標を具体的に提示し、各目標の達成に向けてその戦略を明確化し、分かりやすい言葉で受験生や保護者に説明し、共感をえることが必要であります。

そこで、大学改革の方針として、青森大学の理念をベースに、ICT やグローバル化時代に対応した教育方針を確立し、どのような人材を育成するかについての具体的な方策を明示することが肝要です。青森大学の人材育成の方針として「地域に根ざしながら、グローバルな視点から地域を捉え、イノベーションを通じて地域や企業の活性化に貢献できる人材の育成」を志向することといたします。また、青森大学全体としても , 地域の活性化に貢献できる体制の構築を推進いたします。そして、このような趣旨のもと青森大学の改革ビジョン 2018 を下記のように提示することとしました。

1　青森大学改革ビジョン 2018

1 － 1　グローバリージョン大学

「グローバリージョン」とは、グローバルとリージョンを合わせて創った私の造語で、建学の理念である地域とともに生き、真の地域貢献を行うためには、グローバルな視点か

ら地域を捉え直し、複数の地域を経験し、住んでいる地域を相対化できる能力が必要であり、そのためには多様な国の人々と直接交流し、多様性の中で思考することが要請されることを示しております。つまり、グローバルな視点に立って地域を活性化する戦略を考え、行動していくことの重要性を示しております。このような意味では、スピードの速い環境の中で留学生とともに学ぶことができる東京キャンパスの存在は、青森の大学生にとって他の地域の大学にはない大きな利点であるとともに本学の戦略的拠点の一つとなるものです。

１－２　尖った大学

「尖った大学」とは、本学が位置する青森は中小企業で成り立っている地域であり、県自体も決して豊かとは言えない地域であります。このような地域に生きる小規模な大学が地域とともに生き、地域に貢献していくためには、いろいろなことを中途半端に行うのではなく、真に貢献できる領域に集中し、そのような能力を持った人材を育成していくことが必要であるとの認識を示したものです。そこで、本学は、中小企業、ベンチャー (スタートアップス)、イノベーションに焦点を合わせ、総合的に教育研究を行っていくことを明らかにしました。このような戦略をとっている大学は、本学以外他にありません。尖った大学というビジョンは、地域と共に生き、地域を活かすという本学の理念を実現し、本学が新たな環境の中で生存し、発展していくための独自戦略を提示したものであります。本学の理念をベースに、このような分野に集中し、独自性を打ち出していくことで、青森のみならず、全国、あるいはアジア各国から学生を集めることが可能であると考えております。各学部には、どのような戦略で尖っていくか（特徴をだすか）を考えるように指示しております。

１－３　利害関係者の価値創造と実現

全ての組織は、多様な利害関係者に囲まれて生存しております。様々な利害関係者の支持なくては存続不可能です。本学の利害関係者としては、学生、保護者（家族）、教職員、高校、企業、地域社会等があげられます。学生は、本学に入学したことでワクワク楽しく学生生活を送り、実践知を学べること、保護者にとっては、子供が青森大学に入学することで、楽しく学び、成長しているということ、教職員は、本学で有意義な教育・研究ができること、高校は、青森大学に入学させた生徒が生き生きと学んでいること、企業にとっては、本学の卒業生が活躍し、採用して良かったと感じられること、地域社会においては、青森大学の卒業生が様々な分野で活躍し、地域社会の活性化に貢献していることが、本学にコミットする価値となっております。青森大学は、このような多様な価値を創造し、実

現することで生存し、発展できることを銘記し、全ての活動のベースとすべきであると考えております。

2 行動指針

上記のようなビジョンを実現するために、次のような行動指針を定めることとします。

2－1 志

志やこのようにありたいという姿を常に意識し、自らを高めていく努力を怠らない。

2－2 全体と個の融合

自らの志と全体の方向性のベクトルを合わせていくことは個の成長と組織の発展のいずれにおいても必要不可欠な要件である。本学のように、小規模かつ多様な大学においては、全体と個の融合は、特に重要である。各人が、目標を共有し、周囲とコミュニケートしながら目標実現のために協働していくことが重要である。

2－3 チャレンジ

志や目標を決めたら、その実現にむけて積極的に挑戦していくことが求められる。現状に甘んじることなく、自らの成長と大学の発展を目指して挑戦していく。

2－4 ワクワク楽しく

チャレンジするためにはこれまで以上の努力とコミットメントが求められる。ワクワク楽しくチャレンジすることで、多くの人たちを惹きつけ、困難であったことも実現可能となり、周りを明るくすることができます。楽しく、前向きに行動しよう。

2－5 情熱と思いやり

困難と思える目標や仕事も情熱を持って行えば実現可能となる。多くの仕事は、他のメンバーとの協働なしには達成不可能である。情熱は波及し、他のメンバーを動かす。そして、多様な人々への思いやりの心を持って行動することが重要である。

3　各学部、研究所の戦略の要諦

3－1　総合経営学部

総合経営学部の変革戦略のポイントは、ビジネス創造と中小企業の変革を通じて地域経済の活性化に貢献することができる人材の育成です。総合経営学部を尖った学部にするためには、他の大学の経営学部や商学部にないベンチャー創造や中小企業のイノベーションにフォーカスを当て、その分野の研究教育を体系的に行う体制を整えることが肝要です。例えば、総合経営学部を事業創生、中小企業イノベーション、観光ビジネス、スポーツビジネスを研究教育のコアとして、尖らせることが可能であろうと考えています。

3－2　社会学部

社会学部を尖らせた学部に変革するポイントは、既存の社会システムが閉塞しており、新たな社会システムへの変革が必要であるとの認識の共有が求められます。この前提に立って、新たな地域社会のあり方を構想できる人材の育成が本学に求められている課題であり、この課題に対応するためには、例えば地域社会の構想、ソーシャルビジネス、社会福祉をベースにして、新たな基軸のもと本学部を尖らせることが必要です。

3－3　ソフトウェア情報学部

ICT の急速な展開は、本学部に変革を迫っています。本学部は、プログラミングを徹底的に指導するということで地域に浸透を図ってきました。しかし、プログラミングはあくまでも基礎であって、本学の独自性を際立たせる武器とはなりません。したがって、これまで築いてきたプログラミングをベースに、例えば情報システム開発コースやビッグデータ活用コース等を設けて特徴をだすことが必要であります。

3－4　薬学部

定員確保が必須の要件であります。そのために、薬学部改革プロジェクトチームを設けて早急に定員確保の戦略を考えます。また、関連各機関とのネットワークを構築し、協力を得ることも重要であります。上記のような戦略に加えて、足繁く高校に出向き , 青森大学薬学部の魅力を説明し、共感を得る地道な努力が求められます。それとともに、国家試験の合格者数をできる限り多く出すような学部の改革も必要不可欠であります。後述する「脳と健康科学研究センター」や「青森ねぶた健康研究所」との密接な連携によって尖らせることも考えるべき視点です。

３－５　総合研究所

2018 年度から、総合研究所を青森大学の独自な研究と地域連携の中核機関とするべく取り組んでおります。そのためには、本学の総合力を活かすことができるテーマを設定し、全学的に取り組むことが要請されます。また、本学は地域連携活動に積極的なことで知られていますが、バラバラになっている地域連携活動を研究所でまとめて本学全体の地域連携戦略を策定することが必要であります。将来的には、産学官連携や地域連携を統括する社会連携センターを創設し、本学全体の研究戦略を担う総合研究所と独立させる体制を考えております。

３－６　東京キャンパス

東京キャンパスは、2019 年 4 月に東京都江戸川区に設立された別置のキャンパスであります。当初は、総合経営学部のみであったが、2020 年からは社会学部、ソフトウェア情報学部も加わり三つの学部の教育研究が行われております。学生は、青森からの学生のみならず、留学生も多いことから国際色豊かな中で学んでおります。授業は、青森からの遠隔授業と東京キャンパスの教員による対面授業（青森キャンパスでは遠隔授業）を行っております。「青森大学ビジョン 2018」を象徴する戦略的拠点であり、完成年度に向けて教育研究体制の一層の充実を図っていく所存です。

３－７　脳と健康科学研究センター

本研究センターは、センター長として脳神経外科の権威である片山容一先生を迎え、青森大学がこれまで進めてきたスポーツ科学や健康科学に関する研究をもとに、医療法人雄心会 青森新都市病院と連携することによって医療と健康科学の融合を目指すべく設立されたものです。下記青森ねぶた健康研究所と同様、本学の目指す尖った大学の象徴となる研究センターであります。

３－８　青森大学　青森ねぶた健康研究所

2019 年 8 月に瀬谷先生を迎えて開設した本研究所は、日本医療研究開発機構（AMED）の研究支援を受け、副作用のない次世代の免疫増強剤である「ARNAX」を開発し、創薬化することを目的に設立されました。これまでの前臨床の結果は順調であり、2022 年 3 月までに臨床試験に導出できる ARNAX 開発に向けて研究を進めております。なお、2021 年 1 月には本研究所の研究シーズをもとに、青森大学では初めての大学発ベンチャーとして「株式会社 先端免疫療法研究所（IAI）」を設立し、臨床研究そして創薬にむけて新たな体制が創造されました。本研究所は、まさしく本学が目指す尖った大学とグローバリージョンの象徴でもあります。

TOPICS

新型コロナウイルス感染拡大の中オンライン授業開始

2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に世界中が混乱した年となりました。本学でも、感染拡大防止のため、2020 年 2 月 28 日（金）に、「青森大学新型コロナウイルス感染症タスクフォース」を立ち上げ、「青森大学新型コロナウイルスへの対応方針」を策定しました。その後も目まぐるしく変わる情勢に合わせて幾度となく会議を繰り返し、対応方針も細かく改訂を重ねております。感染拡大の影響で通常通りの対面授業が困難になりましたが、かねてから青森キャンパスと東京キャンパスの間で行われてきたオンラインによる遠隔授業のノウハウを活かし、４月 27 日（月）から全学で遠隔授業を開始し、コロナ禍にあっても学生の学修活動を滞らせない対策を講じております。

東京キャンパスに３学部を設置

2020 年 4 月より、東京キャンパスでは、これまでの総合経営学部に加え、新たに社会学部とソフトウェア情報学部を設置し、3 学部体制で新たなスタートを切りました。

引き続き IT 技術を駆使し、青森と東京をリアルタイムで繋ぎインタラクティブな授業を展開し、客員教授に SHOWROOM 株式会社、前田裕二社長ら各界の専門家を迎え、最先端の中小企業・ベンチャー経営を肌で感じることができます。留学生も多数在籍し、国際色豊かな環境での異文化交流を通して国際人養成だけでなく、世界中にネットワークを構築し世界に通用する人材の輩出を目指しています。

副専攻制度スタート

本学では、2020 年度より所属する学部以外の専門科目から所定の単位（20 単位）を取得することで副専攻修了証書が付与される「副専攻制度」を開始しました。総合経営学部は「ビジネスイノベーション副専攻」、社会学部は「地域政策副専攻」、ソフトウェア情報学部は「コンピュテーショナル・シンキング副専攻」が開設されています。副専攻の修了は就職活動の際に履歴書等に記入できるなど、様々な場面でアピールできます。

「青大祭」盛大に開催

コロナ対策のために模擬店にビニールシートを設置する学生

2020 年 10 月 3 日（土）、4 日（日）に開催された青大祭は、「New Style　～未来のために今、私ができること～」をテーマに地域の方々をはじめ、多くの方々に趣向を凝らした数々のイベント等を楽しんでいただきました。雨模様の天候となりましたが、両日あわせて 713 人の方々にご来場いただき、「青大祭 2020」を無事に終えることができました。これもひとえに出店していただいた方々をはじめ、地域の皆様、ご来場いただいた皆様、大学関係者の方々のご支援・ご協力のおかげであると大学祭実行委員一同厚く御礼申し上げます。

来年度の「青大祭」をより一層皆様に楽しんでいただけるよう、準備してまいりますのでどうぞご期待ください。

新型コロナウイルス感染症対策として「検温」「マスク着用」「手指消毒」「来場者名簿の記入」にご協力いただき、ありがとうございました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

薬学部白衣授与式

2021 年 2 月 2 日（火）、青森大学薬学部は 2020 年度白衣授与式を挙行いたしました。白衣授与式は実務実習で使用する白衣と名札を授与することで、「Student Pharmacist 」

としての誇りを胸に実務実習に取り組めるよう薬学部が企画しました。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対象学生ならびに関係のある教職員のみで挙行いたしました。

学部長からの白衣授与

第０回イグルー世界選手権大会開催

観光文化研究センターは 2021 年２月７日（日）、「第０回世界イグルー選手権」モヤヒルズで開催し、参加したチームがイグルー作りの出来栄えを競いました。

選手権には青森県内から家族連れや学生など６チーム、計 34 名が参加しました。制限時間は３時間、イグルー作りの「技術」「大きさ」「チームワーク」「独創性」などを３人の審査員が評価し、６チームそれぞれ部門別に表彰しました。

初代世界チャンピオンに輝いた「SNOW STARS」チームは、チームワークの良さを活かし、雪をカットして積み上げる技術や装飾にこだわりを見せるだけではなく、雪室内の段差や凹凸を減らし、過ごしやすさに配慮するなど全評価項目で高評価を得ました。

全チームのイグルーには、それぞれの良さがあり、モヤヒルズには素敵なイグルーがたくさん完成しました。

参加者からは「のこぎりなど本格的な道具を使うのも楽しい。来年もイグルーで遊べるくらい雪が降ってほしい」と感想を頂きました。

観光文化研究センター長の佐々木豊志教授からは「非日常感を味わえるイグルー作り体験は観光と相性が良い。樹氷と併せて、これから青森の新しい冬の魅力としてアピールできる」とコメントがありました。

完成間近のイグルー

※「イグルー」とはカナダ北部で暮らすイヌイットが、雪のブロックを積み上げて作るドーム状の家のことです。狩りに出かけた先で作る簡易的な家ながら、風や寒さを防ぐさまざまな工夫がされています。

新体操部、今年も快挙の連続！

〈男子新体操クラブ選手権大会〉

2020 年 9 月 20 日（日）～ 22 日（火）、岐阜メモリアルセンターで愛ドームにて第 5 回クラブ選手権大会が開催され、本学からは個人選手 16 名が参加しました。個人総合選手権において、満仲進哉（経 4）が 2 位入賞、清水琢巳（ソ 3）が 3 位入賞しました。

〈個人総合成績〉

2 位：満仲進哉（経 4）、3 位：清水琢巳（ソ 3）、15 位：遠藤那央斗（経 1）、
16 位：吉田和真（経 3）、17 位：山上和輝（経 2）

※個人 5 名が 11 月に行われる第 73 回全日本新体操選手権大会の出場権を獲得しました。

〈全日本学生新体操選手権大会〉

2020 年 10 月 25 日（日）～ 27 日（火）、広島県・エフピコアリーナふくやまにて第 72 回学生新体操選手権大会が開催され、本学からは団体 2 チーム、個人 8 名が出場しました。新型コロナウイルスの影響により、無観客での開催となりました。団体選手権では 19 連覇を果たし、個人総合選手権においても安藤梨友（経 4）が 2 連覇を果たしました。

〈団体成績〉

優勝：青森大学、3 位：青森大学 NEO

〈個人総合成績〉

優勝：安藤梨友（経 4）、3 位：佐藤嘉人（経 4）、4 位：佐藤颯人（経 4）、
6 位：佐藤綾人（経 4）、7 位：岩渕緒久斗（経 1）、8 位：吉田和真（経 3）、
9 位：城市拓人（経 4）、11 位：満仲進哉（経 4）

※団体 1 チーム、個人 8 名が 11 月に行われる第 73 回全日本新体操選手権大会の出場権を獲得しました。

青森大学男子新体操部

〈全日本新体操選手権大会〉

2020 年 11 月 20 日（金）～ 22 日（日）、群馬県・高崎アリーナにて第 73 回全日本新体操選手権大会が開催され、本学からは団体 1 チーム、個人 11 名が出場しました。団体選手権では、2 位入賞となり、個人選手権においては、安藤梨友（経 4）が完全優勝を果たしました。

〈団体成績〉

2 位：青森大学

〈個人総合成績〉

優勝：安藤梨友（経 4）
3 位：満仲進哉（経 4）
4 位：城市拓斗（経 4）
5 位：佐藤颯人（経 4）
8 位：佐藤綾人（経 4）

好成績をあげた安藤梨友（左）と満仲進哉

青森イノベーション塾が開講されました

2020 年度も青森市産官学連携プラットフォーム主催の「青森イノベーション塾 2020」が開講されました。

本塾開講の趣旨は、青森での起業を志す学生・市民を対象に起業経験やベンチャーに関する深い知識を持った講師陣による実践的な講義を通して、オリジナルのビジネスプランを、審査員にプレゼンテーションし、審査員による講評をもとにプランをブラッシュアップし、起業を目指すものです。

2020 年 10 月 1 日（木）、株式会社 Looop 中村創一郎代表取締役社長による「起業の動機とプロセス」と題したキックオフ講演を皮切りに全 7 回に及ぶ塾講義を経て、講義で得た知識の集大成として 2021 年 2 月 9 日（火）に、4 名の学生がビジネスプラン発表しました。

ビジネスプラン発表

発表者

総合経営学部	2 年	工藤 陽菜子	「青森市新町商店街活性化大作戦」
ソフトウェア情報学部	3 年	小笠原 一真	「株式会社 NVD 事業計画」
総合経営学部	4 年	高 野　勇 也	「物に心を」
総合経営学部	4 年	喜 來　大 智	「株式会社 AOMORI BASE 事業計画」

審査員

西　秀 記 氏	青森商工会議所 副会頭、株式会社西衡器製作所 代表取締役社長
玉置 浩伸氏	九州大学客員教授、ゴルフダイジェストオンライン共同創業者
西願 雅也氏	株式会社 iCAT 代表取締役 CEO
金 井　一 頼	青森大学　学長

塾講義日程	テーマ	講　　師
10月8日（木）	起業家の理念とミッション	金井 一賴（青森大学学長）
10月22日（木）	起業機会と評価	金井 一賴（青森大学学長）
11月5日（木）	事業コンセプトの形成	金井 一賴（青森大学学長）
11月19日（木）	事業の戦略とマーケティング	玉置 浩伸氏（青森大学客員教授）
12月3日（木）	ビジネスモデル	西願 雅也氏（青森大学客員准教授）
12月17日（木）	資金調達	玉置 浩伸氏（青森大学客員教授）
1月14日（木）	ビジネスプランの作成	西願 雅也氏（青森大学客員准教授）

付属総合研究所

「IT と暮らし」をテーマに付属総合研究所シンポジウムを開催しました

青森大学付属総合研究所は、2019 年度より先端的な研究や社会活動を行っている演者を招き、市民向けにその将来像について紹介しています。2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりリモートワークの実施者が増えたこと、またリモートワークをきっかけに地方へ移住する人々が青森県内でも散見され、人口減少への解決策として期待されていることから、「IT が変える私たちの暮らし - 移住・仕事・医療・生活 -」をシンポジウムのテーマとしました。開催日は、地域貢献センター主催「青森地域フォーラム」の次の日に当たる 2021 年 2 月 19 日（金）で、Zoom によるオンラインと会場参加の併用により実施しました。始めに、NPO 法人あおもり IT 活用サポートセンター事務局長・理事の本田政邦氏および本学ソフトウェア情報学部長の角田均教授により基調報告が行われ、次に青森へ U ターン・I ターンされた IT のスペシャリストの方々から移住の経緯について紹介がありました。最後は、参加者全員によりコロナ禍で進む IT 社会の変化と未来、そして更なる移住者増の可能性について意見交換が行なわれました。会場およびオンライン参加者からは「それぞれが分かりやすく、これからの青森・日本をどうすれば良いのか考えていてすごいと思った」、「多様な経緯を持った方々のお話を聞くことができて有意義な時間だった」というコメントをいただきました。

■ 地域貢献センター

地域貢献センターでは、本学の研究や授業、部活動等、各種地域活動を総括し、地域住民に紹介する「青森地域フォーラム」を実施しています。本フォーラムは 2019 年度まで 7 回連続行なわれ、会場を青森市中心部に設置してきました。2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大により前期の授業がオンラインとなり、授業では十分なグループワークができなかったほか、部活動も長期間活動禁止措置となりました。また、学外における様々なイベントも中止や延期に追い込まれたため、発表者不足によりフォーラムの開催が危ぶまれました。そのため、実施を前提とした方策として、一昨年度、4 月に入ってから行っていた地域貢献賞の授賞式を本フォーラムに組み込み、さらに受賞者の発表も併せて行ったこと、そして青森市産官学連携プラットフォーム主催「第 3 回情熱無限大 AOMORI SIX 合同学修研究発表会」へのエントリーが 25 件あったため、その中から発表可能なチーム

を選抜したことにより、演者を確保することができました。コロナ対策としては、今回初めて全面オンライン発表とし、発表者の密状態を回避させました。また連携先自治体側も、全てオンラインでの参加となりました。下記に実施概要を紹介します。

1．実施概要

1）主催：青森大学（担当・総合研究所地域貢献センター）
　共催：青森市、平内町、三戸町、青森商工会議所
2）日時：2021 年 2 月 18 日（木）14 時 00 分～ 16 時 00 分
3）会場：青森大学 青森市幸畑 2 丁目 3-1　340 教室
4）テーマ：「今こそ地域が輝くとき」
5）開催形式：全面オンライン配信（一般公開）
6）参加費：無料

2．プログラム

▽開会（14:00）司会：青森大学総合研究所 地域貢献センター長 清川繁人
　主催者挨拶：青森大学学長 金井一賴
▽発表（14:05 ～ 15:15）
　① YouTube による青森の魅力発信と海岸ゴミ清掃活動
　（非常勤講師 Mihai- Florin Apostu　Oota）
　② 中高生への薬剤師体験セミナー（薬学部准教授 佐藤昌泰）
　③ 薬育教材の開発（薬学部助手 多田智美）
　④ 大学生の挑戦－会社起業 と将来の夢－（社会学部 4 年 黒田和瑚）
　⑤ 幸畑団地地区まちづくり協議会と青森大学の連携事業
　（幸畑団地地区まちづくり協議会 張山英和）
　⑥ 忍者とイルカでワクワクあおもり－持続的地域活性化に向けて－
　（社会学部教授 清川繁人）
▽地域貢献賞表彰式（15:15 ～ 15:45）
　① 表彰式
　② 最優秀賞及び優秀賞受賞チームによる発表
　（忍者部、読み聞かせサークル、津軽線プロジェクト）
▽ Aomori Six 参加チームによる発表（15:45 ～ 15:55）
　① エントリーチームによる発表

（ネットでつながる『明日が生まれた』アートプロジェクト）
▽閉会の挨拶（15:55 ～ 16:00）青森大学　学長　金井一賴

■ 観光文化研究センター

2020 年度、青森大学観光文化研究センターでは、観光庁「観光産業中核人材育成講座」に関連した講座を展開しました。その他に環境省事業「国立・国定公園への誘客の推進事業」と日本たばこ産業（株）「JT SDGs 貢献プロジェクト」の２つの助成事業を以下の通り実施しました。

～活動の記録～

6 月 6 日 (土)　「陸奥湾イルカツアー」視察　蟹田漁港～陸奥湾
8 月 1 日 (土)　「サイクリング＆フィッシング」青森駅～蟹田漁港
9 月 20 日 (日)　「森に育む講座」青森山田学園所有山林（市内沢山）
9 月 21 日 (月)　「あおもりハーブで野草カフェ」青森大学ヒュッテ（モヤヒルズ）
9 月 26 日 (土) ～ 27 日 (日)「奥入瀬渓流サイクリング＆ワーケーション」
10 月 3 日 (土) ～ 4 日 (日)「十和田湖カヌーのあるファミリーアドヴェンチャー」
10 月 10 日 (土) ～ 11 日 (日) 観光産業の中核を担う人材育成講座
「縄文から現代につながる青森の森と暮らし」
小牧野遺跡・青森大学ヒュッテ（モヤヒルズ）
10 月 17 日 (土) ～ 18 日 (日)「森に遊ぶ講座」青森山田学園所有山林（市内沢山）
10 月 24 日 (土) ～ 25 日 (日)「焚き火料理＆森のクラフト講座」青森大学ヒュッテ
（モヤヒルズ）、青森山田学園所有山林（市内沢山）
11 月 5 日 (木) ～ 6 日 (金) 観光産業の中核を担う人材育成講座
「自然資源を活かす体験型観光商品のマーケティング戦略」
アスパム 4 階十和田
11 月 22 日 (日)「発酵ツーリズム発明家小泉武夫先生直伝！」青森大学記念ホール
12 月 19 日 (土) ～ 20 日 (日)「雪板づくり＆雪板体験ワークショップ」
青森大学ヒュッテ（モヤヒルズ）
12 月 25 日 (金) ～ 27 日 (日)「雪国あおもりイグルーマイスター育成講座」(酸ヶ湯温泉)
12 月 28 日 (月) ～ 29 日 (火)「八甲田ロープウエイ山頂駅にイグルーをつくる」
1 月 30 日 (土) ～ 31 日 (日)「バックカントリー入門講座」青森大学ヒュッテ・モヤヒルズ

縄文から現代につながる青森の森と暮らし

発酵ツーリズム発明家小泉武夫先生直伝！

■ SDGs 研究センター

2020 年度の青森大学 SDGs 研究センターの活動は次の通りです。

開催日	事　業　名	場　所
5 月 25 日（月）	環境社会学 漁協からの講話	平内町
6 月 20 日（土）	環境社会学 漁具管理の講話	ホタテ広場
7 月 3 日（金）	第 1 回勉強会「ポストコロナ時代のローカルキャリアとキャリア支援」（石井重成氏）	青森大学館内 340 教室
7 月 16 日（木）	青森山田高校特進コース SDGs プログラム（前期）	青森山田高校
7 月 22 日（水） ～ 26 日（日）	大学による環境教育モデル形成促進事業業務正課外活動支援 みちのく潮風トレイル調査 7/22 ～ 7/26	みちのく潮風トレイル
8 月 4 日（火）	八甲田外来植物駆除 アクティビティ	八甲田山
8 月 7 日（金）	第 2 回勉強会 「SDGs 時代の幼少期の自然体験と人間形成」 （佐々木豊志氏）	青森大学館内 340 教室
8 月 19 日（水）	教育観光モデル形成促進事業業務	奥入瀬渓流
9 月 1 日（火）	青森山田高校特進コース SDGs 全体講座	青森山田高校
9 月 2 日（水）	薬学部 卒研発表見学	青森大学
9 月 9 日（水）	青森山田高校特進コーステーマとメンバー発表	青森山田高校

9月11日（金）	第3回勉強会 「地域に根ざすバイオマスエネルギー ～その可能性と課題～」（柏谷至氏）	青森大学館内340教室
9月12日（土）	平内町ツバキ種子採取	平内町
9月17日（木）	平内町連携事業白鳥の町プロジェクト	平内町
9月19日（土）	青森山田高校特進コース平内町夜越山ツバキ種子採取	平内町
9月21日（月）	教育観光モデル形成促進事業業務	白神山地
10月3日（土）	第4回勉強会 「学生が歩く“みちのく潮風トレイル（10分の1）”青森発」（喜來大智氏・小柴圭太氏）	青森大学中庭
10月27日(火)	青森山田高校特進コースSDGsプログラム	青森山田高校
11月13日（金）	第5回勉強会 「SDGs時代のパートナーシップ：「聴く」という事」（相澤久美氏）	5105教室
12月13日（日）	高校生科学研究コンテスト　SDGs賞 設立	
12月13日（日）	第10回青森市環境フェア　2020出展	ねぶたの家 ワ・ラッセ
12月25日(金)	青森山田高校特進コース SDGs中間報告会	青森山田高校
1月22日（金）	第6回勉強会 「弘前藩庁日記に記録された鳥の話：津軽地方の人と野生生物の関係」（竹内健悟）	
1月29日(金)・ 2月12日（金）	黒石商業高校 SDGs講義	黒石商業高校
2月20日（土）	第7回勉強会 「野外の遊びと学びの接点を探る」（盛健一氏、佐々木豊志氏）	総合研究所会議室＆学内中庭
3月11日（木）	青森山田高校特進コース SDGs最終報告会	青森山田高校第一会議室
3月12日（木）	卒業論文・研究SDGs研究センター賞 設立	総合研究所 会議室

青森大学 SDGs 研究センター 第 4 回勉強会を開催

本学 SDGs 研究センターが、「学生が歩く “ みちのく潮風トレイル (10 分の 1)” 青森発」と題し、2020 年 10 月 3 日（土）青森大学キャンパス中庭で勉強会（第 4 回）を開催しました。

来学参加者 11 名と遠隔参加者 29 名が、発表者の総合経営学部 4 年小柴さん、喜來さんと焚き火を囲みながら、みちのく潮風トレイル体験談を語っていただきました。

日常生活から離れて歩く行為には、禁欲性や省察性、身体的な鍛錬が伴うことから、巡礼や修行という自己開花の手段としても古今東西、形を変えながら継承されてきました。近年、こうした長距離を歩く行為やロングトレイルへの社会的関心が徐々に高まっており、東日本大震災後に環境省が復興事業として提唱、設置した「みちのく潮風トレイル」が 2019 年全線開通しました。本勉強会では、青森県蕪島から南下ルートで岩手県野田村までの約 100km を 5 日間、キャンプをしながら歩いた青大生 2 名の体験談をもとに、歩くことの意義、観光など地域振興との関係、さらにはこうした歩く若者を育み支援する地域の教育機関の役割について広く考え合う機会となりました。参加者からは、「焚き火と学生たちの話を聴きながら、グローバル経済や人間の幸せについて考えさせられました。100km は難しいですが、自分もロングトレイルしたい気持ちになりました。」とお話をしてくれました。

■ 競争的資金の獲得状況

2020 年度　科学研究費助成事業一覧

研究代表者分

研究種目	学　部	氏　　名	研　究　課　題	研究期間	直接経費
基盤研究（C）	総合経営学部	沼田　郷 （分担者：他学 1 名）	光学産業における国際移転プロセスの解明	2020 ～ 2022 年度	¥500,000
		飛鳥　由美子	納税者意識から見る会計・租税教育の再構築	2020 ～ 2022 度	¥300,000
	ソフトウェア情報学部	鈴木　幸人 （令和 2 年度転入、1 年延長）	流体力学における構造保存型数値解法の開発	2017 ～ 2020 年度	¥50,201
		大島　和裕 （分担者：他学 1 名）	オホーツク海の海氷生成を促進する淡水供給起源の新パラダイム	2020 ～ 2022 年度	¥900,000
		黒田　茂	多足類が示す適応的なロコモーション進化に対する力学モデルによるアプローチ （※前倒し支払い請求分含む）	2020 ～ 2022 年度	¥2,200,000
	薬学部	佐藤　昌康 （分担者：本学 2 名）	学生エンゲージメントを促す薬学教育の実践	2020 ～ 2024 年度	¥700,000
		福井　雅之 （分担者：本学 1 名）	栄養成分を用いた副作用の少ない癌細胞増殖抑制法の開発	2020 ～ 2022 年度	¥1,300,000
新学術領域	ソフトウェア情報学部	緑川　章一	ニュートリノ物理と大気ニュートリノスペクトルの精密計算	2019 ～ 2020 年度	¥800,000

他機関所属代表者の分担分（2020 年度の金額）

研究種目	機関名	氏　　名	研究課題・分担者名	研究期間	直接経費
基盤研究（B）	海洋研究開発機構	朴　昊澤	海氷減少が北極陸域水循環に与える影響の実態解明　（ソフトウェア情報学部・大島和裕（令和２年度転入））	2017 ～ 2020 年度	¥300,000
	奈良大学	吉村　治正	内閣府世論調査の測定誤差の研究（社会学部・澁谷泰秀）	2018 ～ 2020 年度	¥260,000
	山形大学	山田　浩久	「観光の組織化」と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築　（社会学部・櫛引素夫）	2018 ～ 2021 年度	¥50,000
	群馬大学	伊藤　賢一	不健全なインターネット利用により顕在化した健康被害の実態調査と啓発プログラム開発　（社会学部・船木昭夫）	2020 ～ 2023 年度	¥175,000
	防衛医科大学校	宮崎　裕美	ミトコンドリア機能と品質管理機構から捉える重症病態の分子病態研究（薬学部・大越絵実加）	2020 ～ 2022 年度	¥500,000
基盤研究（C）	北見工業大学	吉川　泰弘	寒冷地河川における実用的アイスジャム計算モデルの開発と陸面モデルによる広域展開　（ソフトウェア情報学部・大島和裕（令和２年度転入））	2018 ～ 2020 年度	¥120,000
	尾道市立大学	後藤　祐一	社会的企業のハイブリッド組織マネジメントの統合的解明　（学長・金井一頼）	2019 ～ 2021 年度	¥300,000
	朝日大学	梅村　直己	歯髄幹細胞の象牙芽細胞への分化誘導メカニズムの歯科臨床応用　（薬学部・大越絵実加）	2020 ～ 2022 年度	¥100,000

科研費以外の研究

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成財団・期間
佐藤　昌泰・ 三浦　裕也・ 大越絵実加	地域住民の意識向上に寄与する健康志向の調査 －感覚器機能を用いたフレイル・サルコペニア予防の啓発活動	¥285,000	青森学術文化振興財団
櫛引　素夫	新青森駅開業 10 周年に向けた市民協働の場づくりの深化および情報発信の強化に関する研究・実践成果報告書	¥299,000	青森学術文化振興財団
木原　　博	鮫神楽の伝承・発展と地域の振興に関する研究事業（2 回目）	¥172,000	青森学術文化振興財団
藤　　公晴	SDGs 時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究②	¥919,739	青森学術文化振興財団
瀬谷　　司	サイトカイン毒性のない免疫増強アジュバント ARNAX の非臨床試験へ向けて	¥71,128,980	AMED 2019 年度～ 2021 年度
澁谷　泰秀	青森フィールドにおける高齢者の詐欺被害防止実装活動	¥2,641,600	国立研究開発法人 科学技術振興機構 2017 年 10 月 ~2021 年 3 月
		¥75,446,319	

［教育研究プロジェクト］

青森大学では例年、教員個人やグループによる研究を募集し、価値ある研究については相応の予算配分をすることにより、研究活動の活性化を図っております。2020 年度の教育研究プロジェクトの申請は次の通りです。

No.	学　部	プロジェクト名 (部門)		代表者	参加者
1	総合経営学部	研究推進	ウィルダネスによって形成されたアメリカ環境思想の基礎的研究 3 ―わが国におけるウィルダネス研究の先覚者 東良三に着目して 2―	関　智子	―
2	社会学部	研究推進	「ウィズ・コロナ」時代における新幹線プロジェクトの変容に関する緊急基礎調査	櫛引素夫	永澤大樹 （青森大学付属総合研究所・客員研究員）
3	社会学部	教育改革	高大連携地域貢献学習プログラム開発プロジェクト	秋田敏博	鹿内史（ソフトウェア情報学部）
4	ソフトウェア情報学部	教育改革	子ども食育プロジェクト	鹿内　史	―

5	ソフトウェア情報学部	研究推進 文理融合	ファインチューニングを用いた筆跡鑑定手法の提案	新妻 雅弘	―
6	薬学部	研究推進	LC/MSによる高精度ハイスループット尿中ホルモン定量法の開発	三浦 裕也	寺村俊夫、キムサンムク、川辺紘太郎（薬学部生）
7	薬学部	研究推進	正常型プリオンタンパク質のリガンド機能の解明	水野 憲一	水谷征法（薬学部） 平尾悟、一戸美穂、宮下莞槙（薬学部5年生）
8	薬学部	研究推進	バキュロウイルスバクターを用いたがんワクチンの開発研究	水谷 征法	水野憲一（薬学部） 平尾悟、一戸美穂、宮下莞槙（薬学部5年生）
9	薬学部	教育改革 文理融合	薬育教材の作成に関する研究 （2020年度小学校低学年用向け）	多田 智美	三浦 裕也（薬学部） 秋田 敏博（社会学部） 早坂 香代子（薬学部生）
10	薬学部	研究推進	血糖降下薬の作用機構に関する研究	益見 厚子	櫻井誠、森山航平（薬学部5年生）
11	薬学部	研究推進	ドラッグストアにおける薬剤師の役割	津田 岳夫	三浦 裕也（薬学部） 安谷屋美鈴、今泉帆乃夏、三浦朱以、清野大輝（薬学部5年生）
12	薬学部	教育改革	中高生を対象とした薬学的な概念の形成を図る理科実験教材の開発 （アズノール軟膏とハーブティーのカミツレ）	大越絵実加	―
13	ソフトウェア情報学部	研究推進	オンライン授業の実施検証と応用研究	角田 均	藤澤 日明（ソフト） 谷地哲夫、田中希、佐藤祥子（情報化推進センター）
14	ソフトウェア情報学部	文理融合	人工知能技術への応用を前提とした物語分析 及び 物語生成システムの開発	小野 淳平	―
15	薬学部	研究推進	記憶機能制御に関与する新規ノシセプチン結合タンパク質の機能阻害に関する研究	三輪 将也	上家 勝芳（薬学部 分子生物学研究室） 木立 由美（薬学部 実験治療学研究室）

［2020 年度出張講義一覧］

青森大学では地域の要請に応じ、教員が出張講義を行っています。2020 年度に行われた出張講義は次の通りです。

依頼元	実施日	教員名	学　部	テ　ー　マ
青森市沖館市民センター	2020/4/25（土）	中田吉光	総合経営学部	元気あっぷる体操
中央市民センター	2020/7/14（火）	飛内文代	社会学部	青森の近代文学
中央市民センター	2020/7/15（水）	清水保明	薬学部	身近な微生物に対する感染予防
東部市民センター	2020/7/16（木）	清水保明	薬学部	身近な微生物に対する感染予防
北部地区農村環境改善センター	2020/7/16（木）	藤林正雄	社会学部	人間関係で悩まないために人間関係からストレスを考える
青森山田高校	2020/7/16 ㈭～12/25 ㈮ 計 5 回	藤　公晴	社会学部	青森山田高等学校特進コース SDGs 共同プログラム
青森東高校	2020/9/10（木）	清水保明	薬学部	身近な微生物に対する感染予防
青森南高校	2020/10/30（金）	岡島史和	薬学部	薬はどうして効くの？タバコ成分ニコチンにまつわる話
青森南高校	2020/10/30（金）	船木昭夫	社会学部	高校生のこころの健康
沖館市民センター	2020/11/13（金）	清川繁人	社会学部	健康を保つ植物ポリフェノール
中央市民センター	2020/11/24（火）	柏谷　至	社会学部	自然エネルギー先進地・青森を目指して
戸山市民センター	2020/12/2（水）	金光兵衛	薬学部	タンパク質の異常と病気
五所川原高校	2020/12/11（金）	清水保明	薬学部	身近な微生物に対する感染予防
沖館市民センター	2020/12/17（木）	藤林正雄	社会学部	人間関係で悩まないために人間関係からストレスを考える
西部市民センター	2020/12/23（水）	金光兵衛	薬学部	タンパク質の異常と病気
中央市民センター	2020/12/24（木）	柏谷　至	社会学部	NPO でまちを変えるー非営利活動入門 -
黒石商業高校	2021/1/29（金）・2/12（金）	藤　公晴	社会学部	青森県立黒石商業高等学校 SDGs 講義＆ワークショップ

学生委員会

◆青森県警察大学生防犯ボランティア委嘱状交付式

日時：2020 年 7 月 7 日（火） 11 時～　場所：第一会議室

青森大学第一会議室で青森県警と防犯活動を行う「青森県警察大学生防犯ボランティア」の委嘱状 (指名書) 交付式が行われました。

社会学部 1 年の工藤瑞希さんとソフトウェア情報学部 1 年の清川竜之介さんが出席し、委嘱状（指名書）を受け取りました。

2 人は青森県警察大学生防犯ボランティアとして特殊詐欺等の被害防止活動や、防犯イベントへの参加や合同パトロールなどの活動を行います。

◆青森大学学生活動支援制度　～あおりんプロジェクト～

日時：2020 年 7 月 21 日（火） 15 時～ 17 時　　場所：青森大学第一会議室

応募されたプロジェクト

❶高圧蒸気滅菌部

❷青森大学から発信する「美」 ～華に学ぶ日本の伝統文化～

❸＃津軽線プロジェクト

とても熱の入ったプレゼンテーションとなり、質疑応答も活発に行われました。

[あおりんプロジェクトとは]

学生による主体的な学びや活動を推奨し、より効果的な内容としての高まりを期待するための支援を目的とし、本学学生個人や部・サークル等団体を対象に、自ら企画し、主体的に取り組む活動や事業を支援するために助成する制度です。

制度の名称は「青森大学学生活動支援制度－あおりんプロジェクト－」とし、学内において公募した上で事業内容を選考し、その活動の支援・助成をします。

地域社会に貢献する「地域とともに生きる大学」、そして、すべての学生が主体的な能力を引き出し、学び続ける力、つながる力、確かめる力という３つの力を身に付け、「未来を拓く実践力」を社会で発揮していける「学生中心の大学」となることを目指す本学の教育研究目標を達成するために、学部学科を超えた主体的なプロジェクトが多数応募されることを期待します。

選考されたプロジェクトは、「認定プロジェクト」とし、教員や職員の助言を求めながらプロジェクトを達成し、その経験を基に学生生活を充実したものにすることを目的とし

ます。

◆交通安全講習会

日時：11 月 20 日（金）16 時 30 分～　場所：6 号館記念ホール

この講習会は雪道の特性と危険を回避する方法を学び、雪道特有の道路状況での安全運転を啓発することを目的として、毎年開催しているものです。

講師には青森警察署第一交通課安全教育係長の鎌田真一様をお迎えし、「雪道での安全運転　～事故を起こさない、事故に遭わないために～」を演題に約 30 分、お話していただきました。

講習会でお話のあった「1 割スピードダウン」「2 倍の車間距離を取る」「3 分早めの出発」を心掛けることで、これから始まる雪道運転に向けて良い準備ができたのではないでしょうか？

◆青森大学リーダー研修会（12 月 16 日）

日時：12 月 16 日（水）16 時 30 分　場所：642 教室

参加者：学友会執行部、体育会および文化会のクラブ・サークルの代表学生　52 名

リーダー研修会の目的は以下の 4 項目です。

1.「リーダーシップを学ぶ」

2.「リーダーとしての意識向上を図る」

3.「充実した学生生活を送るための方策を考える」

4.「他団体との交流を深める」

メインテーマは昨年に引き続き「充実した学生生活を送るための方策を考える」です。

大学敷地内における迷惑駐車やタバコの吸い殻や空き缶・ペットボトル、レジ袋等のゴミのポイ捨て問題改善に向けての具体策を 8 グループに分かれ討論・発表を行いました。各団体のリーダーを自覚している学生ということも相まってか、初対面とは思えないほど開始直後からグループ内で役割を決め、活発な意見交換が見られました。

今後、学友会執行部および各団体が中心となり、提案された改善案に基づき「充実した学生生活を送るため」に向け、新たなる一歩を踏み出すことに期待が持てそうです。

附属図書館

青森大学附属図書館が主催する第 26 回読書感想文コンクールについて審査が行われ、金賞 1 名、銀賞 2 名、銅賞 3 名が選定されました。今回の受賞者は下記の方々です。

金賞：苫米地愛美さん（薬学部 2 年）

銀賞：田村蒼静郎さん（総合経営学部 2 年）　細川晃太朗さん（社会学部 2 年）

銅賞：奥崎千優さん（社会学部 2 年）　石牟禮華月さん（総合経営学部 2 年）

辻村朱美さん（社会学部 2 年）

これからも学生の皆さんに読書体験を積み重ねてもらえるよう、図書館も応援していきたいと思っています。

国際交流センター

［在日本大韓民国民団青森県地方本部からの支援品］

在日本大韓民国民団青森県地方本部より新型コロナウイルス感染拡大の影響で不自由をしている韓国人留学生にマスク、消毒液や食料を寄贈し、支援したいとのお申し出がありました。

本学ではありがたく寄贈をお受けし、本学に在籍する韓国人留学生に配布することとなりました。

お申し出にともない 7 月 7 日（火）、青森大学にて支援品寄贈式が行われました。

［第 16 回「話してみよう韓国語」青森大会］

2020 年 12 月 12 日 (土)、弘前大学で第 16 回「話してみよう韓国語」青森大会が開催されました。社会学部 4 年濱田沙也華さんが、韓国へ交換留学に行った際の経験を流暢な韓国語で語り、スピーチ部門で優秀賞を受賞しました。また、社会学部 2 年の中村優花さんと中谷彩美さんが 2 人 1 組で韓国語の台本に沿った演技を堂々と披露し、一般スキット部門で優秀賞を受賞しました。

「話してみよう韓国語」青森大会　表彰式後の様子

キャリア支援チーム

キャリア支援チームでは、学生の就職支援に関する具体的な方策を決め、それをベースに就職課が中心となり年間計画を立案、実務に取り組む体制で行っています。しかし2020 年度は新型コロナウイルスの影響により来学相談できない場合もあり、その場合は電話やオンラインでの相談も実施しました。また、インターンシップや面接についてもオンラインの方法を取る企業が増えており、それに迅速に対応することにより、学生の就職支援が滞ることがないように努めました。

青森大学オープンカレッジ

青森大学の生涯学習機関である「青森大学オープンカレッジ」の 2020 年度の活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、残念ながら全ての講座について中止せざるを得ない結果となってしまいました。そんな中、市民大学講座に受講申込みをされていた方々の中から希望者を対象に、12 月 16 日（水）オンライン　ミニ・コンサートを開催しました。このコンサートは、例年「青森第九の会演奏会」に参加している本学の白岩貢教授の地域貢献演習 C クラスの学生たちが、今年度の演奏会中止を受けて、練習の成果発表をする場を設けるために企画されたものです。当日は、オープンカレッジ所長　船木昭夫教授の挨拶により開演し、今年度特別に授業アシスタントとして指導にあたっているメゾ・ソプラノ歌手の吉田 信子先生、ピアニストの宇野 花純先生と白岩教授による演奏（千の風になって、待ちぼうけ、栄冠は君に輝く、トゥナイト等）の後、クラス受講生の 2 年生 28 名による「交響曲第九番 “ 合唱つき ”」第 4 楽章の大合唱によって幕を閉じました。

学内からの Zoom 参加者を含め、約 25 名がコンサートを堪能されました。市民大学の方からは「学生さんが少ない人数ながら頑張って良い声で歌っており、良い経験が出来たのではと思っております」とのコメントがありました。

青森大学脳と研究科学研究センター

[研究目的]

青森大学が進めてきた健康科学に関する研究と、青森新都市病院の持つ最先端の医療技術が連携し、「脳を活かすこと」に重点を置いて「健康の増進」と「健やかな超高齢社会の実現」を目指し、独自の視点からさまざまな研究に取り組むことを目的としております。

[健康課題]

当研究センターの 5 つの部門に所属する研究者の過去 5 年の実績をもとに、これからの研究を展開するにあたって、具体的な計画立案を講じることが重要な課題となっております。

[2020 年度　各研究部門の状況]

（1）スポーツ健康科学部門

主な研究テーマは、スポーツと健康増進、運動と関連する脳循環、神経受容体の変化です。スポーツやエクササイズを含む身体活動量の増加は、脳血管障害を含む生活習慣病の予防に効果的に作用します。神経科学的解析方法を活用し、運動が脳機能に及ぼす作用の

メカニズムを解明する研究に取り組んでいます。

（2）脳神経外科部門

主なテーマは、脳神経外科の視点から見た健やかな超高齢社会の実現です。脳神経外科は手術以外にも科学とともに発展してきました。特に脳機能研究では局在論と全体論の両者に深くかかわってきた歴史があります。社会と共に歩み、脳と脊髄を守るための研究を脳神経外科の観点から進めていきます。

（3）スポーツ脳神経医学部門

主な研究テーマは、スポーツによる脳震盪、外傷性脳損傷、慢性外相性脳症への対策です。スポーツは健康増進法の一つですが、どんなスポーツでも怪我の危険が伴います。とくに頭の怪我は、繰り返すと重篤な後遺症を引き起こします。スポーツ頭部外傷の病態を研究し対策を講じることで脳を守り、安全にスポーツができる環境の構築を目指しています。

（4）リハビリテーション脳神経医学部門

主な研究テーマは、リハビリテーションによる脳機能の再建と健康増進への応用です。現在、リハビリテーションに経頭蓋磁気刺激を併用して、脳卒中後上肢機能を回復し、身体及び脳機能の再建ならびに健康増進を開始しています。対象を健常人に拡大する予定です。

（5） 臨床薬学部門

主な研究テーマは、健康寿命を阻む青森特有疾患の薬学的研究です。青森県に特有な疾患に対する薬剤の疫学的検討、各種後発品の薬剤特性の解析と適正使用推進に関する研究、特許切れ後の新薬と後発品発売動向に関する研究を進め、臨床現場と薬学を橋渡しする研究、特に青森に特有な疾患に関して疫学的検討を行い解析します。さらに、薬動物態的手法を用い、後発品を中心とした医薬品の選択の最適化研究を実施します。

[2020 年度講演等実績]

青森大学脳と健康科学研究センター　日浦幹夫教授

日　付	開　催　名　称	詳 細
2020 年 2 月 16 日（日）	第 37 回癒しの環境研究会 「動物と癒し」 「エクササイズとリラックス（快適さ）の関係：運動と脳機能の研究結果から」	講 演
2020 年 2 月 28 日（金）	第 3 回 RISTEX プロジェクトシンポジウム 2020 「健幸 ai ちゃん」と「短縮版詐欺抵抗力アプリ」の協働による普及・啓発 「ロコモティブ・シンドローム予防のために開発した『健幸 ai ちゃん』」	講 演
2020 年 7 月 31 日（金）	東奥日報「短命県返上キャンペーン」:「女性の美しさは心と健康から」 「運動を始めて、続けて、生き生きライフ」	記 事
2020 年 10 月 21 日（水）	東奥日報「短命県返上キャンペーン」:「健康づくりは職場から」 「運動を始めて、続けて、生き生きライフ」	記 事
2020 年 8 月 29 日（土）	第 2 回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 青森 「病態メカニズムに基づいたリハビリテーション治療戦略：森岡周	座 長
2020 年 12 月 1 日（火）	東奥日報「短命県返上キャンペーン」:「毎日の運動で体も心も快調に」 「運動してストレス解消しよう！」	記 事

青森ねぶた健康研究所

［青森大学　青森ねぶた健康研究所開設］

青森大学は、日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受けて、2019 年 8 月に「青森ねぶた健康研究所」を開設しました。本研究所設置の趣意はワクチンアジュバントの創製を企業と連携して推進することであり、具体的なタスクは樹状細胞を標的とする免疫増強アジュバントとして国内外で要望の高い ARNAX を臨床試験に導出することです。副作用なく 免疫を強める薬を作って、がん・感染症のワクチンをサポートし、健康長寿に貢献することを目指します。

［新型コロナウイルスワクチン増強剤開発を開始］

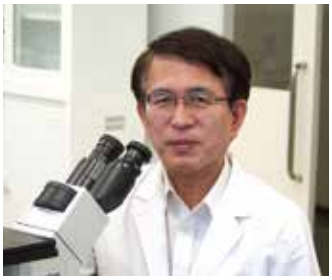
2020 年 2 月 28 日 (金) には、青森ねぶた健康研究所として新型コロナウイルスワクチン増強剤開発を開始するにあたり記者会見を行いました。

世界中に広がっている新型コロナウイルス (COVID-19) について、ワクチンを増強する (感染症状を全く起こさない) 免疫増強剤を国立感染症研究所などと共に開発を進めています。

［青森ねぶた健康研究所　所長　瀬谷司教授のあいさつ］

これから日本は未曾有の高齢化社会を迎えます。国の施策は長寿国の達成に成功しましたが、寝たきりや介護難民を増やしての物理的延命は健康寿命とは距離がありそうです。まず生きる幸せとは何かを問うことが重要な課題になります。健康はその課題の大前提です。私たちの研究は健康寿命を確保し、医療の改善に資することを目的とするものです。それは個人だけでなく、人類の将来に還元される措置だと信じています。ワクチン免疫学分野は個人の営利ではなく社会の改善を実現するものです。身を削って次世代へ引き継ぐ目標を 明確にし、目標達成を目指します。

青森ねぶた健康研究所は先端免疫療法研究所（IAI）と連携して ARNAX の臨床試験をサポートし、社会の改善を実現するとともに、若手の研究者を育成して次世代の目標達成を目指します。



所長　**瀬谷司教授**

日本語教員養成プログラム

［2020 年度日本語教員養成プログラム］

2020 年 5 月 9 日 (土) より、総合経営学部と社会学部が合同で開催している「日本語教員養成プログラム」の集中講義が始まりました。10 月からは日本語教育実習が本格的に始まり、12 月 26 日 (土) に、最後の教壇実習に臨みました。同年 3 月には本学の卒業生でもある科目等履修生の岩川正人さんが本プログラム初の修了生となり、続いて 9 月には科目等履修生の中野渡芳朋さんと小野厚志さんの 2 名が修了しました。また、2021 年 3 月には総合経営学部 4 年の喜來大智さんとワイバ・ゴビンダさん、社会学部 4 年の鈴木優里さんを含む計 7 名が修了しました。

教育実習Ⅰの教壇実習

教育実習Ⅲの教壇実習

2020 年度「日本語教員養成プログラム」修了式

［2020 年度青森県日本語指導サポーター養成講座］

2020 年 6 月 6 日 (土) より、青森県日本語指導サポーター養成講座が始まりました。新型コロナウィルスの影響で、当初の予定より 2 か月遅れてのスタートになりましたが、最後の指導実習も無事に終え、10 月 17 日 (土) の修了式を迎えました。2020 年度までに 76 名の日本語指導サポーターが誕生していて、青森県内に住む外国人住民に寄り添い、みんなが安心して気持ちよく暮らせるよう、県内のあちこちで活動しています。

グループ活動風景

日本語指導実習の風景

［青森県内の小中高等学校での児童生徒向け日本語支援開始］

2020 年度より、弘前大学教育学部多文化リソースルームと連携し、県内の日本語支援が必要な児童生徒に対しての日本語支援を開始しました。本学の日本語教員養成プログラムと、青森県日本語指導サポーター養成講座の受講生や修了生が、県内各地で活躍しています。10 月 13 日(火)には、青森県教育委員会および青森県国際交流協会の方々が、リモートによる日本語支援の視察にいらっしゃいました。

小学生向け日本語支援

中学生向け日本語支援

高校生向けオンライン支援

［地域日本語交流会「にほんごカフェ」の開催］

2020 年 10 月 2 日 (金)、第一回目の「にほんごカフェ」（全 5 回）を開催しました。介護施設で働く外国人の方々を大学に招いて、日本語能力試験の合格を目指し、日本語教育を学ぶ学生たちと交流しながら日本語の勉強を重ねました。また、3 月 17 日 (水) の 2020 年度最後のカフェでは、参加者全員の試験合格をお祝いしました。

［「にほんごカフェ in 中泊」の開催］

青森大学と中泊町が連携し、「にほんごカフェ in 中泊」（全 4 回）を開催しました。このカフェでは、中泊町に住む技能実習生の方々と日本語指導サポーターが交流しながら、日本語や日本文化について学びます。2021 年は東日本大震災から 10 年を迎える節目の年であることから、2 月 26 日 (金) には、地震をテーマに防災について一緒に学びました。最終日の 3 月 26 日 (金) には新しいカレンダーを作成し、中泊町役場に掲示しました。

大学内で「にほんごカフェ」開催

避難グッズを紹介する学生

部活動・クラブ活動の主な記録

青森大学 部活動・サークル紹介

期日：2020 年 7 月 7 日（火）　16 時 20 分～
場所：３５０教室
　４月の新入生オリエンテーションが時間短縮開催となり実施できなかったため、別途日程を調整し青森大学 部活動・サークル紹介を開催しました。
　約３０名の新入生が参加し、参加団体からの説明に耳を傾けていました。

硬式野球部

2020 年北東北野球新人戦

期日：2020 年 8 月 8 日（土）～１０日（月）
結果：準優勝
優秀選手賞：内山透吾（投手）

2020 年北東北秋季リーグ

期日：2020 年 8 月２２日（土）～9 月２０日（日）
結果：２位
優秀選手賞：遠藤暉世己（投手）
ベストナイン：西川侑汰（外野手）

2020 年大館トーナメント大会

期日：2020 年 10 月 16 日（金）～ 19 日（月）
結果：準優勝
優秀選手賞：野坂瞭汰（投手）

男子新体操部

第７２回全日本学生新体操選手権大会

期日：2020 年 10 月 24 日（土）～27 日（火）　場所：広島県福山市　エフピコアリーナ
団体：優勝（19 連覇達成）
個人：総合 1 位　安藤梨友

第７３回全日本新体操選手権大会

期日：2020 年 11 月 20 日（金）～ 22 日（日）　場所：群馬県高崎市　高崎アリーナ
団体：準優勝

個人：総合 1 位　安藤梨友

青森県スポーツ賞

期日：2021 年 1 月 16 日（土）　場所：ウェディングプラザ　アラスカ
受賞者は以下の通りです。

【スポーツ大賞】

1. 男子新体操部
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　青森大学男子新体操部　団体優勝
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　個人総合優勝　安藤梨友

青森市スポーツ賞

期日：2021 年 1 月 29 日（金）　場所：ホテル青森　孔雀の間
受賞者は以下の通りです。

【スポーツ奨励賞】

1. 男子新体操部
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　青森大学男子新体操部　団体優勝
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　個人総合優勝　安藤梨友
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　個人総合 3 位　佐藤嘉人
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　クラブ：準優勝　リング：3 位　佐藤颯人
- 第 72 回全日本学生新体操選手権大会　スティック：3 位　城市拓人
- 第 5 回全日本男子新体操クラブ選手権大会　個人総合準優勝　満仲進哉
- 第 5 回全日本男子新体操クラブ選手権大会　個人総合 3 位　清水琢巳

2. カーリング
- 第 15 回全国高等学校カーリング選手権大会　男子の部　優勝　今聡太
  ※高校在籍時の実績が受賞の対象となっています

【スポーツ指導者賞】

1. 青森大学男子新体操部　監督　斉藤剛大
   第 72 回全日本学生新体操選手権大会　青森大学男子新体操部　団体優勝

総合経営学部

2020 年度を振り返って

青森大学総合経営学部長　佐々木 豊志

中長期計画では、地域に根ざした大学、地域に貢献する大学を目指し、実務教育を推進し、地域企業支援を中心とした地域貢献とスポーツ振興の学部ブランドを強化し、新たに、地域課題に応える地域企業経営や観光経営の教育・研究を充実することを掲げています。しかし、2020 年度は、新型コロナウイルスの影響が大きく、波乱のスタートとなりました。３週遅れの新年度授業がスタートし、６月末までは、全面的な遠隔授業を余儀なくされました。コロナ禍の中にあっても企業や行政との連携を深めることができたのは、観光文化研究センターの事業です。次年度開講予定の観光プログラムを充実させるために、観光文化研究センターの事業にゼミ学生・地域住民を参加させ地域資源を活かした観光経営の学びの場を提供することができました。

前年に引き続き、スポーツ振興の再構築のもと新体操や硬式野球など課外活動の支援を強化し、「保健体育」教員免許取得や様々な教育的支援によって、スポーツを通した人間教育、文武両道の実現を目指し学部ブランドの強化を図ることも進めました。

高大連携の推進では青森商業高校との関係構築を強化するべく、青森商業高校の研究プロジェクト発表大会を聴講し、次年度以降の取り組みを進めました。

学部教育の充実と基本計画の中小企業支援、観光プログラムの充実、実学教育を実行可能にするため、新規教員採用を含め教員スタッフの充実を図りました。

４年生の卒論発表大会は、コロナ禍のため動画撮影を行う動画発表による審査となりました。社会人基礎力を測定する PROG の結果のフィードバックを教員に行いました。総合経営学部はコンピテンシーが高く今後はこの強みをより生かす教育が必要と考えています。

2020 年度総合経営学部経営学科学生研究発表大会

2021 年 2 月 2 日（火）、2020 年度総合経営学部学生研究発表大会の撮影が行われました。例年は記念ホールにて多くの先生や学部生の聴講のなか行われてきた本大会も、本年度はコロナ禍という状況に配慮し、録画審査形式での大会となりました。専門演習を担当する 9 名の審査委員による厳正な審査の結果、大会各賞は次のように選考されました。

◆ **最優秀賞**

「電力会社の総括原価方式に関する一考察」　1117095　西舘　彩寧

◆ **優秀賞**

「食品ロスの現状と課題」　1117033　釜蒻　麻侑花

◆ **優良賞**

「青森県交通モビリティ改革～各地の実例を基にした青森県への新交通システム導入に対する実現性を問う～」　1117002　浅利　瞭太

◆ **佳作**

「VOD の普及がもたらす映画館への影響と可能性」　1117111　前田　拓斗

◆ **研究奨励賞**

「JT のグローバル展開？にむけた可能性：アフター・コロナの行動変様についての一考察」　1117013　遠藤　暉世己

「十和田八幡平国立公園八甲田山における冬の自然体験型観光の意識調査」　1117040　喜來　大智

「日本と台湾の外国人労働者に関する研究」　1116125　ショウ・フトク

「ボールパーク建設による北広島市の地域活性化」　1117123　宮崎　稔基

「少子高齢化による労働人口の減少外国人労働者の雇用を考える」　1117125　保谷　雄志

◆ **地域貢献賞**

「十和田八幡平国立公園八甲田山における冬の自然体験型観光の意識調査」　1117040　喜來　大智

◆ **パフォーマンス賞**

「電力会社の総括原価方式に関する一考察」　1117095　西舘彩寧

（飛鳥由美子　准教授）

情報処理推進機構主催の「IT パスポート試験」に２名の合格

2020 年度『IT パスポート試験』において、4 年生の浅利瞭太さんと 3 年の山脇帆乃夏さんが見事合格しました。本学部から合計 17 人目の合格者となりました。

本試験は、IT 化が進む現代社会において、備えておくべき IT に関する基礎的な知識・能力を有することが証明できる国家試験で、総合経営学部では、合格をめざす学生向けに夏休み・春休みの期間を利用して短期集中型形式の講習会を開講しています。

自身の設定した目標に向かって取り組むことで、短期間で急速に成長していく様子が、指導する立場として最も強く印象に残ります。またこの種の資格試験合格者は、就職にも強いという傾向が見受けられます。今後も、広く学生にチャレンジを呼びかけながら、これまでの対策講習会で得た多くの教訓・経験を活かした指導を行っていく考えです。

高大連携・接続の取り組み

2020 年 12 月 14 日 (月)　アップルパレス青森において「令和 2 年度青森県の商業教育における高大連携推進協議会」が開催され、本学部からは飛鳥由美子准教授が出席しました。

協議会には青森県内の商業（実業）高校と商業系の学部を置く大学が参加して、高大連携・接続の取り組み状況の報告や意見交換などが行われました。

本学部からは商業高校出身者の研究活動の内容、外部団体主催発表会への出展の様子、卒業後の進路状況などを説明し、高大接続の取り組み状況として「高大連携科目等履修制度」について、受入れ状況や大学で学ぶ高校生の様子について報告しました。

高校側からは新学習指導要領に含まれる「観光ビジネス」や学習活動における「実務に即した例題」といった新たに対応を迫られる教育の課題について、高大連携・接続の取り組みを最大限に活かしたいとの要望がなされました。

また、2020 年 12 月 23 日（水）には青森商業高校において「令和 2 年度青森商業高等学校生徒商業研究発表大会」が開催され、本学部からは佐々木豊志学部長、松本大吾准教授が来賓として出席しました。高大連携・接続の可能性について探りました。

（飛鳥由美子准教授、松本大吾准教授）

日本商工会議所簿記検定対策

本学では入学前においても入学前学習の段階で簿記を選択学習することが可能であり、入学後も日商簿記検定の資格取得を目指す学生に対し、各級に応じた対応をしています。特に近年、2 級の出題範囲は広範囲となり難化傾向にあるため、総合的な対策としての演習問題を始める前に重点的に新規論点が定着するよう指導をしています。

他の科目との時間割の重複や部活、学外活動で簿記関連科目を履修できない学生に対応するために、資格取得を目的とした授業のほか、試験前の 1 ヵ月弱の期間にわたり各級の演習形式の補講やメールでの質問を随時受け付けています。これにより、より多くの合格者を輩出することが期待されます。

（松本大吾准教授、飛鳥由美子准教授）

社会学部

社会学部、2020 年度その一年間の歩み

青森大学社会学部長　佐々木 淳一

青森大学社会学部は、「地域と共に生きる学部」を目指し、地域に貢献できる人材の育成を強力に押し進めています。そしてそれは、わたしたちが日々地道に培い育んできた教育活動における成果の証しとして、大きく豊潤な「果実」、社会学部の 2020 年度の活動報告となって目の前に現れます。

たとえば、ゼミ活動の一環として「寺山修司をめぐる青森市内の文学散歩」を実施して寺山修司のエッセイなどに描かれた青森市内のゆかりの場所を訪ね、写真撮影と取材を行ったこと。

たとえば、「メディア論」での実践として、青森県の地方紙・東奥日報の紙面と社員の講話を授業に活用する特別授業を実施し、記者の活動や新聞とネットの関係に理解を深めながら、学生たちが新聞を読み、メディアの現状と課題、可能性を探ったこと。

たとえば、「ソーシャルワーク実習」として、学生たちによる施設・機関実習や学内実習を行ったことなどです。

そしてそのほかにも、社会学部で青森山田高校普通科キャリアアップコース 1 年生との連携授業を 2 年目となる今年度に計 5 回実施したことや、教員による「地域活動」、「研究業績」、「論文投稿」、「フォーラム主催」、「学会発表」など、わたしたちは数多の栄えある足跡を残してきました。

それでは、社会学部としての 2020 年度一年間の歩み、その一部をここにご紹介します。

ゼミ等の活動

[社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱでの実践（飛内ゼミ）]

1　寺山修司をめぐる青森市内の文学散歩

2020 年 6 月 1 2 日（金）、社会学部 2 年生 9 名が、寺山修司のエッセイなどに描かれた青森市内のゆかりの場所を訪ね、写真撮影と取材を行いました。

青森市勝田の平和公園をスタート。ここは昭和 4 3 年まで東北本線の浦町駅があった場所で、寺山は列車にまつわるエピソードを書いています。そこから、寺山が 6 歳から昭和 2 0 年の青森空襲で焼け出されるまで住んでいた橋本 2 丁目付近へ。寺山の遺稿となった

「懐かしのわが家」にも登場します。次いで、中央１丁目の青森市役所の向かいには寺山の通った聖マリア幼稚園がありました。国道を渡り、「空襲」に出てくる本町１丁目の蓮華寺へ。すぐ近くの橋本小学校には、寺山が４年生まで通いました。

青柳２丁目のモルトン迎賓館は、かつて寺山が中学２年から暮らした歌舞伎座のあった場所です。ここから寺山は、堤町１丁目の青森市立野脇中学校に通学しました。今はリンクステーションホールとなっています。「青森と私」で寺山が懐かしく思い出す大観堂は閉店したが、今も営業している食堂小田九の店先を通って、堤川を渡ります。

ゴールは栄町の「文芸のこみち」。ここには１６基の文学碑があり、寺山の短歌「大工町寺町米町仏町老母買ふ町あらずやつばめよ」を刻んだ碑を確認しました。

この内容を分担してレポートにまとめ、「寺山修司のいた町は今」と題して、弘前市の寺山の生誕地や合浦公園の碑を取材した３名分を加えて現在の写真を付した地図を作成し、大学祭で展示しました。

２　青森県近代文学館見学

①常設展示

2020年７月１７日（金）、社会学部２年生１２名が、青森県近代文学館（青森市荒川字藤戸　青森県立図書館２階）の常設展・エクステンド展示「石坂洋次郎の主著」を見学しました。青森県の文学者について、文学館職員による説明を聞いた後、展示室で解説を交えながら、見学・取材活動を行いました。

取材の結果は、レポートにまとめ、ゼミで発表しました。

②企画展示「ミステリーの魔術師　高木彬光生誕１００年展」

2020年１１月６日（金）、社会学部２年生１２名が、青森県近代文学館で開催されていた「ミステリーの魔術師　高木彬光生誕１００年展」を見学しました。

１９２０年青森市に生まれた高木彬光は、１９４８年「刺青殺人事件」でデビュー。「能面殺人事件」など数多くの作品を発表し、名探偵・神津恭介をはじめ、日本ミステリー界に大きな足跡を残しました。

文学館職員による説明を聞いた後、展示室で解説を交えながら、見学・取材活動を行いました。

取材の結果は、レポートにまとめ、ゼミで発表しました。

（飛内文代）

メディア論での実践

青森県の地方紙・東奥日報の紙面と社員の講話を授業に活用する特別授業を、11 月 30 日（月）から 12 月 21 日（月）まで実施しました。記者の活動や新聞とネットの関係に理解を深めながら、学生たちが新聞を読み、メディアの現状と課題、可能性を探りました。

特別授業は、社会学部で後期、開講している「メディア論」で行いました。約 50 人の履修者は 9 月以降、新聞をはじめとするマスメディア、成長を続けるネットや SNS について学習を重ねて特別授業に臨みました。

第 1 回の 11 月 30 日（月）の授業では、東奥日報社報道部の三好陽介記者が、記者の仕事や取材歴をテーマに講話しました。工学系の大学に入学した後、地元紙記者に取材を受けたのがきっかけで記者を志した経緯や、経済分野を主に担当し、ローソンやイトーヨーカドーの進出を取材した経験を解説しました。

学生からは「記者にとって最も大切なことは？」と質問があり、三好記者は「さまざまな現場を自分の目で確かめること」と強調しました。

この後、青森大学ＯＢの小橋徹記者（県政担当）らが、取材や新聞の制作、展示会などの文化事業、ネット運営などについて講話しました。

（櫛引素夫）

ソーシャルワーク実習

2020 年度は 13 名（4 年生 3 名、3 年生 10 名）の学生による施設・機関実習及び 3 名（3 年生 3 名）の学生による学内実習が行われました。新型コロナ禍による多大なる影響を受け、10 ケ所の実習先施設・機関の実習期間は、かなり流動的に遂行されることとなりました。このような状況下において、実習先施設・機関の協力、実習に臨む学生の努力により、合計 23 ～ 25 日間（180 時間以上）の実習を、無事修了しました。

また、残念ながら実習先から受け入れ不可（新型コロナ禍による影響のため）となった学生へは、学内実習を余儀なく実施しなければならないという事態となり、綿密な計画の下、学生への指導を行ってきたしだいです。

昨年度からの実習指導Ⅰによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなり

の時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識を習得すべく、実習生達は一所懸命に取り組んできました。

これらの成果を集約した実習報告書を作成し、実習で経験した貴重な内容を発表する機会として、実習報告会を２月 22 日（月）に実施しました。

（長内直人）

国家試験受験対策

今年度の社会福祉士・精神保健福祉士国家試験は 2021 年２月６日（土）、７日（日）の日程で実施されました。本学の受験学生は、社会福祉士５名、精神保健福祉士６名、うちダブル受験１名でした。

今年度は新型コロナ禍の影響で、昨年よりも国家試験対策としての取組みが、１ヶ月ほど遅れた形で実施せざるを得ませんでした（学生の学内立ち入り禁止等のため）。取り組みの内容としては、実習室を受験希望者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策を行ってきました。また、４年生を対象に、前期３回にわたって実施した共通科目の学内模擬試験と自主勉強会、後期４回にわたって実施した専門科目の学内模擬試験、さらに８月 17 日（月）～ 20 日（木）に実施した「通い合宿・自主勉強会」、10 月 16 日（金）～ 17 日（土）の４年生を対象とした全国統一模擬試験などを実施しました。また、現３年生の国家試験受験希望者を対象に、日本社会福祉士会模擬試験を受験させ、現段階での自己の学力を認識していただく一つの指標としての材料提供を実施しました。

（長内直人）

高大連携

社会学部では、青森山田高校普通科キャリアアップコース 1 年生との連携授業を 2019 年度から実施しています。２年目の今年度は 5 月から実施し計 5 回実施しました。第 1 回目は藤先生の「学びという冒険」というテーマについて「学ぶこと」を楽しむことについて講義を行い、その後は 4 つのグループに分かれ、グループごとのテーマに沿って、街歩きや施設見学等を行い、最終日に学びについての報告会を開催しました。各グループのテーマと担当者については以下の通りです。コロナ禍により、活動内容の変更を余儀なくされた部分もあるが、生徒たちが自分たちで見たこと、経験したことを資料としてまとめ、報告するという一連の学びを提供することができました。

○実施日

第 1 回　2020 年 5 月 21 日（木）　全体への講義
第 2 回　2020 年 6 月 18 日（木）　グループ学習①
第 3 回　2020 年 7 月 9 日（木）　グループ学習②
第 4 回　2020 年 9 月 3 日（木）　全体見学　（十和田市美術館見学）
第 5 回　2020 年 9 月 10 日（木）　全体報告会

○グループの担当教員とテーマ

1 グループ　佐々木淳一先生　「コンパクトシティへの取り組み」
2 グループ　清川繁人先生　「ねぶたの発祥とは」
3 グループ　金　二城先生　「社会は持続可能なのか？」
4 グループ　田中志子先生　「対人援助とコミュニケーション」

（田中志子）

講演

■藤　公晴

Empowering Young Global Talents in Japan on Social Impact. Hult Prize JAPAN（6月24日）
「SDGsって何？」秋田県立大学　生物資源科学への招待（7月13日（月））
「SDGs時代における青森大学の教育の質向上に向けた試み」青森県環境政策課主催　環境活動ネットワーク交流会　（11月18日（水））
「SDGsってなんだろう」 青森県中小企業家同友会上十三支部例会（11月27日（金））
「SDGs時代の国立公園ビジターセンター：裏磐梯ビジターセンター交流会 / 研修会」 東北環境パートナーシップオフィス（2月26日（金））
「SDGs時代の地方の高等教育機関の可能性と課題（仮）」特定非営利活動法人はちろうプロジェクト勉強会（3月2日（火））
「SDGsと青森（仮）」青森モーニングロータリー卓話（3月9日（火））
「SDGsとまちづくり、まちおこし（仮）」六戸町観光協会（3月19日（金））
平内ハクチョウのまち再生事業実行委員会（6月25日（木）、10月18日（日）、2月18日（木））
ハクチョウのまちフォトコンテスト＆イラストコンテスト審査会（1月21日（木））
特別天然記念物浅所海岸コアマモの生育調査（9月1日（火）、11月1日（日））

ソフトウェア情報学部

2020 年度を振り返って

青森大学ソフトウェア情報学部長　角田　均

世界中がコロナ禍の大混乱の中ではじまった 2020 年度のキャンパスは、学生にとっても我々教職員にとってもあらゆる意味で試練と創造の年でした。

特に通学が制限されてキャンパスに入れない在学生、そもそも入国すらできない留学生、新しい人間関係を作り出す機会を制限された新入生など、不自由は学生生活を余儀なくされた学生達にとっては、大学での学習意欲や向上心を維持することが大変困難だったことと思います。

しかしこのような困難な状況の中でも学生達は逞しく、オンライン授業の上手な受け方や学習コンテンツの活用、友人同士や教職員とのコミュニケーションの取り方を工夫し、一人ひとりが新しいスタイルの学生生活を模索してくれているように見えます。

また我々教職員もオンライン授業システムの構築やリモートでの学生指導など、学習環境の維持や学生サービスの提供のための新しいしくみ作りに積極的に取り組んでいます。

混乱の一年は、過去何年にもわたって言われてきた大学改革、従来の教育内容や方法を見直して新しい時代にあった大学の形を創造するための大きな一歩を踏み出す一年でもあったと感じています。

2020 年度卒業研究発表会

卒業研究発表会が 2021 年 2 月 15 日（金）9：00 ～ 14：55 に本学 5 号館第五会議室および 5105(AL) 教室で開催されました。本年度は 2 グループに分かれて行ないました。8 研究室 38 名の学生が、サービス構築・アプリケーション開発、CG・マルチメディア、Web、ロボット、組み込みシステム、生物画像情報処理、シミュレーションの各々の分野で取り組んできたテーマについて、実演を交えながら、分かりやすいプレゼンテーションを行いました。発表内には、学生、教員から多くの質問や意見が出され、活発な討論が行われました。

発表者と研究テーマは、以下の通りです。

黒田研究室

岩谷 凌太　「マルチエージェントシステムによる感染症対策「自粛」効果の検討」
及川 健太　「ムカデの障害物回避アルゴリズムの研究：交替性反応の視点から」
葛西 勇眞　「ハスノハカシパンの起き上がり運動の実験と画像解析による研究」
高橋 悠斗　「カメの起き上がり行動の撮影と画像分析」
北村 純平　「ヤドカリの歩行時における応力場測定」

坂井研究室

蝦名 郁也　「柔らかい FPS」
小泉 匠　「熱中症・低体温症への関心を促すシステム」
鈴木 竣太　「2D キャラクター画像から 3D モデルの生成」
中田 佳佑　「VR 技術を活用した楽器練習」
成田 隼規　「姿勢推定を用いた獅子踊りの練習改善」
原田 莉奈　「プログラミングに苦手意識がある人向けの教材」

鈴木研究室

長内 紘之　「Java による数式処理システムの開発（微分）」
倉内 優斗　「Java による数式処理システムの開発（積分）」
成田 伊織　「昆虫の大発生モデルの数値的分岐解析」

角田研究室

天内 葉月　「デジタルマーケティングと効果検証」
大坂 稜弥　「水環境健全性指標データ表示アプリケーションの改修と継続的運用のための作業検証」
和田 翔太　「自作定点観測システムを使用したコンテンツ開発」

橋本研究室

大矢 祥　「教師データを使った自動停止に関する研究」
NGUYEN DUC NAM「RaspberryPi を用いて自動運転プログラム作成」
舘田 倫平　「ET ロボコンのコースを 30 秒で完走するプログラム開発」
原 隆太　「ET ロボコンで用いる走行プログラムを自動で生成する 」
藤原 昂平　「自動運転プログラム」

藤澤研究室

葛西 凌凪　「学内の掲示板に掲示されている掲示物をスマートフォンで閲覧可能にするアプリの開発」
木村 直登　「オセロの対戦型 AI の作成」
佐藤 涼　「運転の採点をする iOS アプリケーションの作成」
濵田 玲菜　「機械学習を用いた手書き顔文字のテキスト化」
古川 太平　「コンテンツの条件検索を行うウェブページのテンプレートの作成」

緑川研究室

奥山 魁　「青森大学部活動ホームページの制作」
木村 理乃　「サークルの Web ページ制作」
友利 有也　「令和２年度沖縄県教員採用試験問題解説作成（中高・数学）」
西巻 佳緯　「企業ホームページの作成」
樋口 大登　「青森大学部活動紹介ページ」
松田 侑樹　「令和３年度新潟県教員採用試験 (高等学校数学) の解答・解説 HP 作成」
宮﨑 裕基　「月毎の人気曲ランキング 2019」

和島研究室

井熊 翔　「健康習慣促進アプリの開発」
小谷 真勇　「高校生の情報教育へのウォークスルーシステムの活用」
横井 小春　「プロジェクションマッピングによる動くねぶたの制作」
横山 正市　「プログラミングセミナの実施と効果分析」

（黒田茂）

2020 年度創作ゼミナールⅡ 成果発表会

2021 年 1 月 22 日（金）、2 月 1 日（月）、2 月 5 日（金）の日程で 2020 年度創作ゼミナールⅡ成果発表会が開催されました。こちらの発表会はソフトウェア情報学部の３年生４１名が発表者となり開催されたものであり、今年度後期より配属された先の研究室において、学生らが来年度の卒業研究に向けて学習した成果や、身に着けた技術を教職員や他学生に向けて発表する場となりました。今年度はコロナ禍の影響もあり、オンライン形式での発表やグループ別での並行開催など、例年と異なる開催形式となり学生らにも負担が大きく

なりました。しかし発表当日は堂々としたプレゼンテーションが行われ、学生間での質問やコメントも多く、来年度に向けて有意義な発表会となりました。

発表学生並びに発表テーマは次のとおりです。

大島研究室

川倉柊羽　『Linux を用いたデータ解析』
藤原拓也　『Linux を用いたデータ解析』
間山武　　『Linux 環境でのデータ解析』
山田優成　『Linux を用いたデータ解析』

黒田研究室

沖舘拓耶　『マルチエージェントシステムによる集団運動シミュレーションを行うための基礎演習』
工藤拓磨　『CAD による多脚擬似生物の 3D モデリング』
成田友輝　『CAD による多脚擬似生物（ストランドビースト）の 3D モデリング』
村中優　　『マルチエージェントシステムによる集団運動のシミュレーション』

坂井研究室

石岡叶　　『ディープラーニングを用いた姿勢制御応用自動モデリング』
小笠原一真『家庭ごみの課題解決へ』
信濃俊太　『ディープラーニングによる文字認識』
柴田朋郎　『友達を『作ろう』！～自然言語処理・画像処理を用いた友達ＡＩ～』
須々田龍　『カメラを用いた画像認識』

鈴木研究室

佐藤悠哉　『なぜ好きなのにケンカをするのか』
杣谷涼　　『感染症について』
福士翔太　『惑星運動の数値シミュレーションに向けて』

角田研究室

清水琢巳　『「FAKE to REAL」～仮想を現実へ～』
高坂剛史　『学生向けの質問投稿サイトの作成』

佐々木陽平『WEB サイト作成におけるツールの比較』
奈良龍世　『美しく効果的なデザイン』

新妻研究室

柳谷康太　『身体的制約に基づく SNS 依存と共起頻度の高い性格の分析』
木村孝平　『感受性の差異によって形成される体運動習性』
高田了吉　『GAN を使ったイラストの画像生成』
鳴瀬貴也　『LSTM と GRU を用いた宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」風の自動文章生成』

橋本研究室

佐々木愛斗『ET ロボコン走行プログラムの設計開発』
吹田大空　『ET ロボコン走行プログラムの設計開発』
山口舞貴　『ET ロボコン走行プログラムの設計開発』
高橋佑佳　『ET ロボコン走行プログラムの設計開発』

藤澤研究室

福士銀志　『Discord 上で動く Bot について開発』
小泉和也　『ソフトウェア研究内容についての調査』
高橋慶至　『YouTube Live のアーカイブから盛り上がった箇所を自動抽出するプログラムの作成』
宮崎翔悟　『画像認識の技術に関する調査』
中村真智　『フロントビューモニタの開発』

緑川研究室

内村美紅　『LaTeX を用いた解答作成』
TRAN HONG SON『販売店のホームページ』
馬場千滉　『アニメの主題歌を研究する』

和島研究室

千葉麗王　『大学案内システムの改良』
阿部佑有　『ミニストランドビースト製作』
久保田塔也『スマホカバーのモデリングと製作』

後藤大輝　『ポリッドスクリーンを活用したプロジェクションマッピングの作品制作』
田中永遠　『四季をテーマとしたプロジェクションマッピング』

（藤澤日明）

青森山田高校特別授業

ソフトウェア情報学部の教員による、青森山田高校情報処理科の 2 年生と 3 年生向けの特別授業を実施しました。

青森大学ソフトウェア情報学部では、青森山田高校との高大連携事業の一つとして、青森山田高校情報処理科の 2 年生と 3 年生を対象にした特別授業を 2015 年度から実施しています。

ソフトウェア情報学部の教員が毎週高校に赴き、高校の課題研究の時間 (2 年生は火曜の 3,4 時間目、3 年生は水曜の 3,4 時間目) を使って定期的な授業の形で実施しています。今年度はコロナの影響もあり、6 月から開始して 2 年生向け 21 回、3 年生向け 18 回を実施しました。

[2 年生向け]

日　程　※いずれも（水）	内　容	担当者
6 月 2 日、6 月 9 日、6 月 16 日、7 月 7 日、7 月 14 日、7 月 21 日	ロボット制御実習	橋　本
6 月 23 日	3D CAD 入門	和　島
8 月 25 日、9 月 1 日	地域と情報技術	坂　井
9 月 8 日、9 月 15 日	数値解析入門	鈴　木
10 月 13 日、10 月 20 日	人工知能概論：知性とはなにか	新　妻
10 月 27 日	予測シミュレーションの仕組み	大　島
11 月 10 日、11 月 17 日	データサイエンス入門	黒　田
11 月 24 日、12 月 1 日	ウェッブページ制作	緑　川
1 月 26 日、2 月 2 日、2 月 16 日	プログラミング (2)	角　田

［3 年生向け］

日　程　※いずれも（水）	内　容	担当者
6 月 3 日、6 月 10 日、6 月 17 日、6 月 24 日、7 月 8 日	プログラミング	角　田
8 月 26 日	機械学習の役割と仕組み	藤　澤
9 月 2 日	データ解析入門	大　島
9 月 23 日	予測シミュレーションの仕組み	大　島
10 月 14 日、10 月 21 日	データサイエンス入門	黒　田
10 月 28 日	IT の過去・現在・未来	緑　川
11 月 4 日	3D CAD 入門	和　島
11 月 11 日、11 月 18 日	数値解析入門	鈴　木
11 月 25 日、12 月 2 日	人工知能概論：知性とはなにか	新　妻
1 月 20 日	プログラミング extra	角　田

（角田均）

青森商業高校 課題研究サポート

ソフトウェア情報学部では 2010 年度から毎年、青森商業高校 3 年生の課題研究で、高大連携班の活動サポートを行っています。

今年度はストリートビュー形式のコンテンツ制作をテーマに 7 名の高校生が参加、ソフトウェア情報学部和島研究室で開発した 360 度カメラ画像によるウォークスルー形式の Web アプリを用いて、青森商業高校の校舎内をウォークスルーするコンテンツ開発に取り組みました。

新型コロナ対策として課題研究の打ち合わせはすべて Zoom を用いたリモート形式で実施、チームの生徒たちにコンテンツ作成方法を解説し、生徒たちが撮影、作成したコンテンツをオンラインで共有しながら修正指示する形で研究を進めました。

12 月 23 日（水）に開催された青森商業高校の商業研究発表大会で「うちらのストリートビュー」のタイトルで研究成果が報告されました。

また和島研究室の 4 年生 (小谷真勇) がサポートとして参加、その成果を「高校生の情報教育へのウォークスルーシステムの活用」として卒業論文にまとめました。

（角田均）

青森山田高校特進コース SDGs 活動サポート

青森山田高校特進コース２年生と青森大学の広大連携による SDGs 活動の特別授業で、「プログラミング教育への参加」をテーマに活動する特進科２年生の２名 (古川翔大、田中寿樹) のサポートを行いました。

プログラミング教育の実体験として、東奥日報主催の小学生プログラミング教室の青森会場 (11/15（日）, 12/5（土）) にサポータとして参加してもらい、実際に小学生の参加者のサポートを体験してもらいました。

活動の様子は別テーマで取り組む他の５チームと合わせて「令和２年度 SDGs 最終報告会」(2021/03/11（木）開催) で報告されます。

（角田均）

International Open Data Day 2020 in あおもり

2020 年 6 月 18 日 (木) の 夕 方、International Open Data Day(IODD) 2020 in あおもりと Code for Aomori キックオフミーティングの合同イベントが学内で開催され、ソフトウェア情報学部の学生が成果報告を行いました。

今年の３月７日（土）に開催予定だった IODD 2020 in あおもりは新型コロ

ナウイルスの感染防止のため実施延期されていましたが、青森県の緊急事態宣言解除を受けて Code for Aomori(CfA) のキックオフミーティングとの合同で、参加者を 20 名程度に限定して開催することとなりました。

イベントはオンラインとオフラインのハイブリッドで開催、前半は昨年度の CfA のプロボノ活動の成果報告を行い、ソフトウェア情報学部 4 年生の横山正市が東北 Tech 道場 @ 青森道場での活動報告を行いました。

後半は青森 KEN 民塾とのコラボ企画で、市内の中学校の先生を招いて GIGA スクールの推進について現場の課題や CfA との協働について意見交換を行いました。

ミーティングでは CfA メンバー (市内の情報系企業、青森大学、八戸工業大学) の他、青森市、青森県、中学校、青森市会議員など様々な立場の参加者から意見が出されました。

またこの春にソフトウェア情報学部を卒業した三上奈緒、北谷優典も CfA メンバーとして参加、今年からは社会人の立場で議論に加わりました。

（角田均）

高校教員向けプログラミング研修会

2020 年 8 月 18 日 (火)、8 月 19 日 (水) の両日に県内の高校の先生方を対象とする Python プログラミング講座が青森大学 5 号館コンピュータ演習室を使って開催され、ソフトウェア情報学部の 4 年生が参加者のサポートを担当しました。

今回の講座は青森県高等学校教育研究会商業部会のビジネス情報分野研究委員会主催による 2020 年度プログラミング指導法研修会として開催されたもので、新学習指導要領における科目「プログラミング」で示された「情報システムの開発」で使うプログラミング言語の候補である Python 言語について、高校でプログラミングを教える立場の県内の高校教員 23 名が参加して研修を行いました。

研修では Python のプログラミング言語としての特徴や性能、開発言語としての活用分野や世界での人気ランキングなどの紹介をはじめ、実際に開発環境を用いたプログラミング演習を行いながら Python 言語の基本的な使い方を学び、2 日目にはオブジェクトの利用や機械学習や深層学習に用いる高度なライブラリの活用まで、Python によるシステム開発に必要な知識や技術を幅広く取り上げました。

講義・演習はソフトウェア情報学部の角田が担当し、演習サポートをソフトウェア情報学部 4 年生の井熊翔と横山正市が担当しました。

井熊と横山は卒業研究で Python を用いた開発、研究を行っており、はじめて Python に触れる参加者を個別にサポート、プログラムエラーや入力ミスなどに丁寧に対応しました。

（角田均）

黒石商業高校 Java プログラミング集中講座

2020 年 9 月 2 日 (水) から 9 月 4 日 (金) にかけて、黒石商業高校で情報処理科 2 年生を対象に Java プログラミングの集中講座を実施、ソフトウェア情報学部の教員 (角田) が講師を担当し、ソフトウェア情報学部 4 年生 4 名が高校生のプログラミング実習をサポートしました。ソフトウェア情報学部では 2017 年から毎年、黒石商業高校で Java プログラミングの集中講座を実施しています。

毎日 4 時間、3 日連続で計 12 時間の講座でプログラミングの基礎からグラフィックを使ったゲームアプリケーションの開発までを実施します。

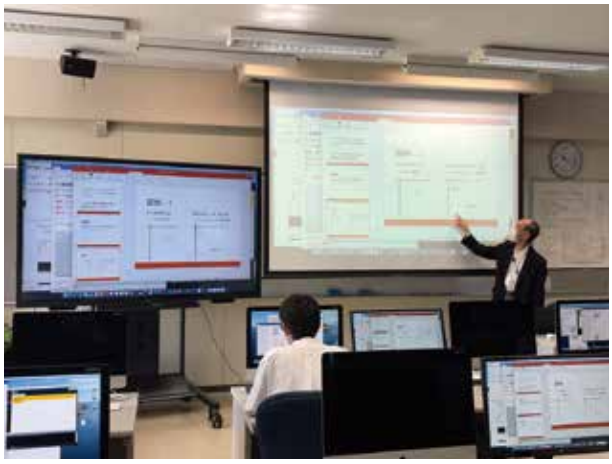
講座ではビジュアル開発環境の Processing を使って実際にプログラムを作成、自分で作ったプログラムコードを動かしながら、体験的にプログラミングの基本を身につけることを目指します。

ほぼ全員がプログラミング初心者の高校生を、ソフトウェア情報学部の学生がサポートして実習を進めました。

今年はソフトウェア情報学部 4 年生の天内葉月、井熊翔、大坂稜弥、横山正市の 4 名が実習サポートを担当、質問対応やプログラムエラーなどのトラブル対応にあたり、ハイペースの講習を乗り切りました。

黒石商業高校は 2022 年度から弘前実業高校、黒石高校との統合が予定されており、今年度の 2 年生向けが最後の講座となります。

（角田均）



大学祭学部展示

2020年10月3日(土)と10月4日(日)に開催された大学祭で学部展示を行いました。

▶新妻研究室:体運動習性の測定実験
▶緑川研究室:謎解きとお茶のコーナー
▶黒田研究室:生物のアルゴリズム実験
▶橋本研究室:自走ロボット展示
▶角田研究室:3Dホログラム展示
▶1年生企画:テレワーク「あるある」体験ブース
▶全体企画:ドローン操縦体験

(角田均)

小学生向けプログラミング教室(青森山田中学校主催)

2020年8月1日(土)に青森山田中学校主催の「理科・プログラミング教室」が開催され、地域の小学生23名が会場の青森山田高校に来校、理科の実験とプログラミング体験教室に参加しました。

プログラミング体験教室の講師はソフトウェア情報学部4年生の横山正市がつとめ、青森山田高校情報処理科の3年生2名と特進コース1年生3名がサポートを担当しました。講師担当の横山は大学の研究室でプログラミング教育をテーマに卒業研究に取り組んでおり、これまでにも高校生から大学生、社会人までが参加するプログラミング道場「東北TECH道場青森道場」の世話人をつとめ、Androidアプリ開発や機械学習をテーマにしたプログラミング勉強会の運営を行ってきました。

今回は青森山田中学校からの依頼を受け、題材の準備から授業計画の立案、配布資料の

準備、さらにサポートを担当する高校生への事前指導など、すべての工程を自分で担当しました。当日は教育用の開発環境 (Scratch) を使い、キャラクターを操作してゴールを目指すアクションゲームのプログラムを作りながら、初めてプログラミングに触れる小学生の参加者たちにプログラムの基本的な考え方や楽しさを伝えられるように工夫したコースを体験してもらいました。

サポートを担当してくれた高校生たちもきびきびとした動きで参加者の質問に対応し、また戸惑っている参加者には積極的に話しかけて、スムーズな教室運営を補助しました。教室の最後にはアンケートを実施、参加した小学生からは「楽しかった」という意見をたくさんいただきました。

（角田均）

弘前実業高校 特別授業

2020 年 11 月 4 日 (金) に実施された弘前実業高校情報処理科 2 年生向けの特別授業の中で、ソフトウェア情報学部の 4 年生が研究紹介を行いました。

弘前実業高校情報処理科では 2 年生の専門科目「ビジネス情報」の中で外部講師による特別授業を実施しており、今回はソフトウェア情報学部の教員 (角田) によるデジタルマーケティングをテーマにした講義を実施しました。

講義では検索のしくみと SEO(Search Engine Optimization)、リスティング広告、リターゲティング広告、レコメンドなど、デジタルマーケティングで用いられる技術や最新トピックスを紹介しました。

また講義にはサポートスタッフとしてソフトウェア情報学部 4 年生の天内葉月が参加、大学の研究室で取り組んでいるデジタルマーケティングに関連する研究を紹介しました。

（角田均）

小学生プログラミング教室 (東奥日報主催)

11 月から 1 月にかけて県内 6 市で開催された東奥日報主催の小学生プログラミング教室でソフトウェア情報学部の学生がサポーターを務めました。

東奥日報社では 2020 年度からの小学校でのプログラミング教育必修化に合わせて、地域の子どもたちにプログラミングに触れる機会を提供する小学生向けの教室を主催、県内 6 市の会場で実施しました。

11 月 15 日 (日)　青森市 (プレ教室)
12 月 5 日 (土)　青森市教室
12 月 24 日 (木)　八戸市教室
12 月 25 日 (金)　十和田教室
1 月 7 日 (木)　むつ教室
1 月 9 日 (土)　五所川原教室
1 月 11 日 (月)　弘前教室

[主催]東奥日報社　[特別協賛]青森県民共済生活協同組合
[協力]NPO法人あおもりIT活用サポートセンター、株式会社ソフトアカデミーあおもり、一般財団法人高度技術社会推進協会(TEPIA)、JforF Lab、一般社団法人日本ドローン協会
[後援]青森県、青森県町村会、青森県教育委員会、青森市教育委員会、弘前市教育委員会、八戸市教育委員会、五所川原市教育委員会、十和田市教育委員会、むつ市教育委員会、弘前大学、青森県立保健大学、青森公立大学、青森大学、青森中央学院大学、青森明の星短期大学、東北女子大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、八戸学院大学、八戸工業大学

青森大学ではこの教室に全面的に協力し、教室での小学生のプログラミングのサポートをすべてソフトウェア情報学部の学生が担当しました。

教室では小学生が Scratch を用いてドローンを制御するプログラムを作成し、実際にドローンを飛ばしてミッションにチャレンジしました。

初めてプログラムに触れる子や、すでに学校の授業で習っている子など、様々な学校から集まった初対面の子どもたちがグループで作業するため、各グループに大学生の担当者を配置、プログラムの中身だけでなく、子どもたちのグループワークがスムーズに進むように積極的に声をかけながらサポートを行いました。

またソフトウェア情報学部の研究室でプログラミング教育をテーマに研究している 4 年生の横山正市と清水琢巳がすべての教室に参加、サポート役の大学生の取りまとめとともに、参加者や保護者へのアンケート実施や教室の様子の動画撮影など、研究データの取得・記録を行いました。

3 ヶ月間、6 市で開催された教室には、各会場午前と午後に約 20 人ずつ、プレ教室を含めて約 200 名の小学生が参加しました。

また、のべ 42 名の大学生と 2 名の高校生 (青森山田高校) がサポーターとして参加、どの教室でも子どもたちが好成績でミッションをクリアするのをサポートしました。

（角田均）

International Open Data Day 2021 in あおもり

2021 年 3 月 6 日 (土) に International Open Data Day 2021 が開催されました。今年度の青森会場はオンライン形式で、Code for Aomori と青森大学ソフトウェア情報学部の角田研究室と社会学部櫛引研究室の主催で開催されました。今年度は「RESAS × MIRO」をテーマに、データドリブンで社会課題を考えるワークショップを実施、Code for Aomori メンバーのエンジニアと青森 KEN 民塾の社会人に加え、ソフトウェア情報学部の学生と社会学部の学生が参加して、グループワークと発表を行いました。

（角田均）

Press Release

2021.3.1

International Open Data Day in Japan AOMORI

3.6 Internatinal OpenDataDay 2021 in AOMORI 開催について

ー　RESASを活用してデータドリブンで社会課題を考える　ー

International Open Data Dayは、年に１回開催される世界同日開催のオープンデータの普及啓発イベントで、昨年は世界中で300を越える都市が参加し、今年で10回目になります。

青森県では毎年Code for Aomori と青森大学が中心になって、毎回新たなテーマや手法を取り入れたイベントを企画しエントリしています。
今年は内閣府・経済産業省が提供するRESAS（オープンデータ等を活用した地域経済分析システム）を活用して、データから地域社会の課題を考察するとともに、オンラインによる新しい共創の進め方として、オンラインホワイトボード「MIRO」を活用して、RESASから見えた課題について、参加者の多様な切り口での創造的な考察の進め方を体験してみます。

ニューノーマル時代に向けて、各自がオンラインでの共創手法を身につけることで、これまでのリアル開催の手間やコストを解消し、場所に依存しない幅広い参加によるナレッジの共有が誰もが手軽に主催できるようになるなど、多様性に富んだより創造的・効率的な社会共創のあり方へとシフトしていくものと考えられます。
報道関係の皆様におかれましては、オンラインでの傍聴や個別取材もお受けいたしますので、ニューノーマル時代・デジタル時代の新しい社会共創のあり方の参考として取材いただければ幸いです。

テーマ：RESASを活用してデータドリブンで社会課題を考える

RESAS × MIRO

・データから地域社会の課題を見つけてみよう！

・オンラインで行う新しい共創を体験してみよう！

RESAS
地域経済分析システム

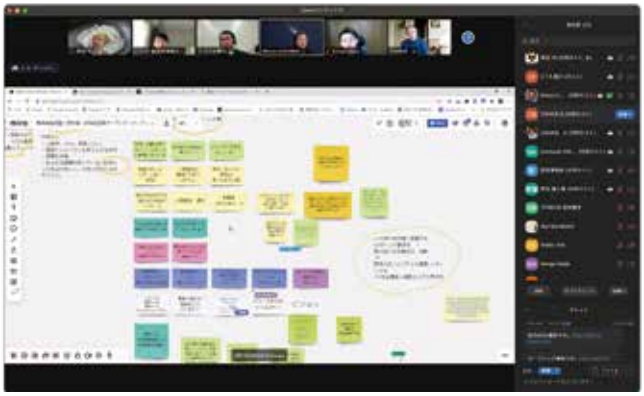
MIRO
オンラインホワイトボード

■日時　2021年3月6日（土）　13:00～16:30 （12:30よりオンライン入場可）
■場所　オンライン開催（ZOOM）
■主催　Code for Aomori　青森大学（角田研究室・棚引研究室）
■共催　青森KEN民塾
■後援　一般社団法人オープン＆ビッグデータ活用・地方創生推進機構
■協力　東北経済産業局　東北財務局青森財務事務所

■プログラム（予定）

13:00	10分	オープニング	プログラム説明など
13:10	30分	インプットセッション	RESASについて紹介
13:40	15分	MIROの使い方	オンラインホワイトボードの操作説明
14:00	90分	共創セッション	RESAS×MIRO　データから考える社会課題の共創（２チーム） ①チーム青森KEN民塾　（社会人中心） 社会課題の発見や考察、解決策等のフリーディスカッション ②チーム学生&CfA　（青森大学生とIT企業人） 新型コロナの経済影響を新たな視点で分析するUIをデザイン
15:30	30分	共有セッション	各チームから共創結果の紹介
16:00	10分	クロージング	総評・感想など

【お問い合わせ】　Code for Aomori　代表　　米田（まいた）
HP　　：https://www.codeforaomori.org/
e-mail　：ggh01057@gmail.com
電話　　：070-8315-0459



第３回情熱無限大 AOMORI SIX 合同学修・研究発表会への参加

青森市にある六つの大学・短期大学などで構成する青森市産官学連携プラットフォームが開催した標記の発表会に、ソフトウェア情報学部から次の６研究室の学生が参加しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため Web 会場（https://aomori6.jp）上での動画またはポスター形式の発表となり、2021 年２月 13 日（土）から２月 28 日（日）までの期間、各チームの発表資料を掲載しました。

チーム名	発表タイトル	指導教員
角田ゼミ	FAKE TO REAL	角　田　均
歩き方を作る	CAD による多脚疑似生物の 3D モデリング	黒　田　茂
ダンゴムシ２号＆３号	マルチエージェントシステムによる集団運動シミュレーション	黒　田　茂
ソフトウェア情報学部 鈴木研究室	昆虫の大発生モデルの数値的分岐解析	鈴 木 幸 人
緑川ゼミ	部活動　紹介用ホームページ	緑 川 章 一
藤澤研究室	運転の採点をする iOS アプリケーションの開発	藤 澤 日 明
５４０８	データから読み解く青森	大 島 和 裕

（坂井雄介）

食を通した子供の居場所活動

● 食育研修：「コロナ禍における発酵食品の大切さ」セミナー（2020 年９月９日（水））

▶ 場所：アピオあおもり

▶ 主催：青森大学料理研究サークル、ローターアクトクラブ

▶ ゲスト講師：NPO 法人ハピたの代表理事　中沢洋子様

▶ 内容：コロナ禍で必要な免疫力を学ぶため、発酵食品に関する研修会と簡単に発酵食品

が取れる「みそ玉」作りセミナーを開催

● 食育イベント：子どもと一緒に楽しむ「いただきます」自主上映会（2020 年 9 月 26 日（土））

▶ 場所：アピオあおもり

▶ 主催：青森大学料理研究サークル、ローターアクトクラブ

▶ 内容：青森県内の親子を招待し、食育映画上映と親子で遊べるイベントを開催

（鹿内史）

IR セミナーの実施

青森中央学院大学と共催で、10 月 19 日（月）と 20 日（火）に互いを会場として以下の IR セミナーを実施しました。

【青森大学 IR セミナー】

▶ 日時：2020 年 10 月 19 日（月）17：30 ～ 18：30

▶ 会場：青森大学 340 教室

▶ 講師：石田光 様（学校法人 青森田中学園 法人本部企画部 IR 担当）

▶ 内容：青森中央学院大学における IR 活動概要、他大学の IR 活動事例等の紹介、講師と青森大学教職員とのディスカッション等

【青森中央学院大学 IR セミナー】

▶ 日時：2020 年 10 月 20 日（火）16：10 ～ 17：10

▶ 会場：青森中央学院大学本部棟 7 階会議室

▶ 講師：坂井雄介（青森大学 IR 推進センター長）

▶ 内容：青森大学における IR の推進、青森中央学院大学における IR 活動報告（青森中央学院大学：石田光 様）、講師と青森中央学院大学教職員とのディスカッション等

（坂井雄介）

模擬授業

学外（高校など）

依頼先	実施日	氏　名	授業タイトル
黒　石　高　校	10月8日(木)	角　　田　　均	プログラミング入門 ～正しくはじめるために～
青森中央高校	10月8日(木)	鈴　木　幸　人	コンピュータに関係する仕事
十和田西高校	10月8日(木)	坂　井　雄　介	「プログラミング思考」とは
青 森 西 高 校	12月15日(火)	大　島　和　裕	プログラミング

大学見学会

依頼先	実施日	氏　名	授業タイトル
青森山田高校	7月17日(金)	大　島　和　裕	予測シミュレーションの 仕組みと利用
青 森 南 高 校	3月22日(月)	大　島　和　裕	プログラミング演習 第0回

オープンキャンパス

	実施日	氏　名	授業タイトル
第　1　回	6月14日(日)	黒　　田　　茂	単細胞生物から学ぶ情報処理
第　1　回	6月14日(日)	鈴　木　幸　人	流れの数値シミュレーション
第　2　回	7月19日(日)	角　　田　　均	プログラミングを体験しよう
第　3　回	8月9日(日)	小　野　淳　平	「今の人工知能で出来ること」

薬 学 部

2020 年度を振り返って

青森大学薬学部長　水野　憲一

2020 年度は新型コロナ感染症の影響を大きく受けた年でした。入学式、スタートアップキャンプ、就職セミナーは中止となり、大学としては 4 月下旬からオンラインでスタートとなるところを、薬学部では 2 週間前から対面でのスタートとなりましたが、感染拡大によりすぐに課題対応となりました。結果として補講をすることなく授業を実施することができました。一方で薬学部では対面で行わなければならない実習科目が多いことも問題でした。特に実務実習の中断、中止や延期により、実務実習委員会での調整が大変だったことと思います。また、2 年の学生実習を後期に回したことにより後期科目が圧迫されました。イベント、出張講義に関しては中止が多かった中で、2 つの薬剤師体験セミナーを対面で実施できたことは幸運でした。高校生科学研究コンテストは、対面での開催を目指して用意してきましたが、感染拡大からビデオ審査への切り替えとなりました。また本度からの新しい試みとして、5 年生における実務実習に向けての白衣授与式を実施しました。薬学部としては、コロナ禍における入学者の減少が大きな課題となりました。コロナ禍において急ピッチで普及したオンラインを活用しつつも、実体験でしか得られない対面でのイベントや講義を行い、学生募集に繋がるように望みたいと思います。

2020 年度「薬用植物園・ハーブ園」での学外実習の実施

2020 年 5 月 30 日（土）、薬学部 1 年の「薬学概論 I」の一環として、青森市農業指導センターに設置されている「薬用植物園・ハーブ園」にて学外実習を実施しました。

この施設は、青森市出身の元東大薬学部長であった石舘守三氏が監修され、県内でも有数の学外植物園です。

薬用植物園には、約 70 アールの園内に、薬草 200 種類、草木 70 種、水生薬用植物 10 種を展示栽培しています。

また、ハーブ園では、面積約 7 アールの園内にラベンダー、タイム、ミント、セージなど約 110 種類のハーブを展示栽培しています。

青空が澄み渡った快晴の中、学生達を 4 班に分け、教員が引率し説明しました。

学生たちは、ソーシャルディスタンスに気をつけながら見学し、教員の説明に耳を傾け、

質問をしていました。

今回、学生には課題の他にカメラを用いたミッションを課しています。そのクリアのため、学生たちは熱心に被写体を探していました。

［秋田県大館市の「薬剤師体験セミナー」開催］

2020 年 7 月 27 日（土）、秋田県大館市と青森大学の共催による「薬剤師体験セミナー」を開催しました。今年で 7 回目となります。

大館市の中学校・高等学校を通じて参加者を募集したところ、中学生 10 名、高校生 17 名の参加者となりました。

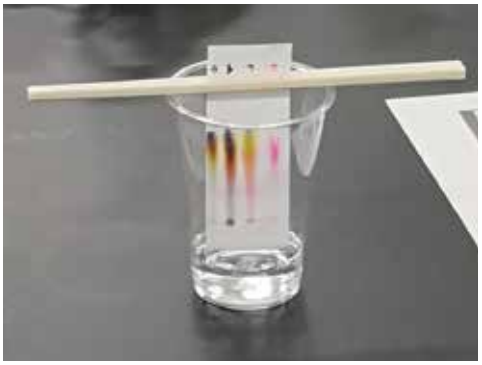
昼食及び薬剤師との懇談には、大館市で活躍されている薬剤師 2 名にご協力頂き、活発な話し合いがもたれました。 参加した皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。

中学生、高校生ともに修了式を行いました。

そして、薬学部の学生 8 名（6 年生 5 名、5 年生 3 名）が協力しました。学生にとって大変だったかと思いますが、良い経験になりました。

中学生メニュー

1. ペーパークロマトグラフィー
2. 生体成分（唾液アミラーゼ）の意義
3. 昼食＆地域薬剤師トークタイム
4. 食品中の生体作用物質（茶葉カフェイン）の単離・同定



高校生メニュー

1. アスピリンの合成・定性分析（塩化鉄 (III) 試液）・純度分析（薄層クロマトグラフィー）
2. 昼食
3. アズノール軟膏の成分と調製
4. 地域薬剤師との座談会

秋田県も、青森県同様に地域医療を担う薬剤師が不足しており、青森大学薬学部は北東北エリアの薬剤師養成機関であります。

大学と大館市および地域薬剤師が連携して、未来を担う中高生に対し、このような地域貢献セミナーを実施しております。

（官学・高大連携）

2020 年度薬用植物フォトコンテスト表彰

- 青森大学 薬学部 -

薬用植物
フォトコンテスト

6 月の第 1 回オープンキャンパスの際に開催された、薬学部 1 年生対象の薬用植物フォトコンテストですが、受賞者が決定しました。

去る 7 月 31 日(金)、三浦薬学部長によって表彰状と副賞(QUO カード)が贈られました。

第 1 位：Olive さん

── Olive さんによる作品コメント ──

「非常に繊細かつきれいな見た目で、他の草木が少しずつ枯れていくのとは裏腹に、初夏の暑さにも負けずに立派に咲き誇っているその凛とした美しさに心引かれて撮影しました。」

第 2 位：にゃんこ先生 さん

── にゃんこ先生さんによる作品コメント ──

「元々植物に興味があって、植物園に行けることを楽しみにしていました。天気も良く、自分の知らない植物も色々見られて、大満足でした。写真を撮る時も、どうしたら良く見えるか考えてとるのも楽しかったです。」

第３位：KT さん

── KT さんによる作品コメント ──

「牡丹の花が咲く時期は４～５月で、ひときわ牡丹の赤色が目立って綺麗に咲いていました。実際に間近で観賞することは初めてで、予想以上に大きく華やかさや風格を感じ、中国で花の王と呼ばれている理由がよくわかる花でした。」

みうら賞：あっぷっぷ さん

── あっぷっぷさんによる作品コメント ──

「この植物は、ラムズ イヤーズという植物で紫色の花を咲かせます。ドライフラワーなどにされる植物で、英名は「子羊の耳」というほど葉が柔らかく耳のような感触を持っています。 」

写真は力作ぞろいで、薬学部 1 年生のみなさんの植物に対する思いが感じられる作品ばかりでした。

投票していただいたみなさま、ありがとうございました。このコンテストは 2021 年度も開催予定です。次回もセンスあふれる写真にご期待ください！

2020 年度 中高生の薬剤師体験セミナーの開催

2020 年 8 月 29 日（土）・30 日（日）、青森大学と青森県教育委員会の共催による「中高生の薬剤師体験セミナー」を開催いたしました。

昨年に引き続き、8 回目の開催です。より多くの参加者を受け入れるため、2 日間の開催としています。

県内の中学校・高等学校を通じて参加者を各 20 名ずつ募集しました。

今年は新型コロナウイルスの影響が心配されましたが、多数の応募がありました。ありがとうございます。

1 日目は中学生 19 名・高校生 20 名、2 日目は中学生 20 名・高校生 20 名の抽選で選ばれた受講生が、薬剤師の仕事を体験しました。

参加した中学生・高校生の皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。

そして、青森県の病院薬剤師 2 名（のべ 4 名）と薬局薬剤師 2 名（のべ 3 名）、そして行政薬剤師 2 名（のべ 4 名）にご協力をいただきました。

また、本学薬学部の在学生（6 年生 8 名、5 年生 4 名、4 年生 1 名）13 名に手伝っていただきました。

中学生の部

【プログラム】 1. 開講式
2. 安全講習
3. 薬を視る『ペーパークロマトグラフィー』
4. 講義『生体成分（唾液アミラーゼ）の意義』
5. 昼食＆地域薬剤師トークタイム
6. 食品中の生体作用物質（茶葉カフェイン）の単離・同定
7. 修了式　修了証書授与

高校生の部

【プログラム】 1. 開講式
2. 安全講習
3. 薬を創る『アスピリンの合成』
4. 昼食＆休憩
5.『アズノール軟膏の成分と調製』
6. 薬剤師を知る『地域薬剤師との座談会』
7. 修了式　修了証書授与

主催：青森大学、青森県教育委員会
協賛：青森県
後援：日本薬学会東北支部、青森県薬剤師会、青森市薬剤師会、青森県病院薬剤師会

追伸

- 8 月 29 日（土）に ATV 青森放送の 17:30 からの報道特集の中の地域ニュースにて放映されました。
- 8 月 30 日（日）の新聞：朝日新聞 青森版にて記事が掲載されました。
- 8 月 31 日(月)に ABA 青森朝日放送の 11:42 からの ABA ニュース及び、18:15 からのスーパー J チャンネル ABA にて放映されました。
- 9 月 2 日（水）の新聞：東奥日報にて記事が掲載されました。

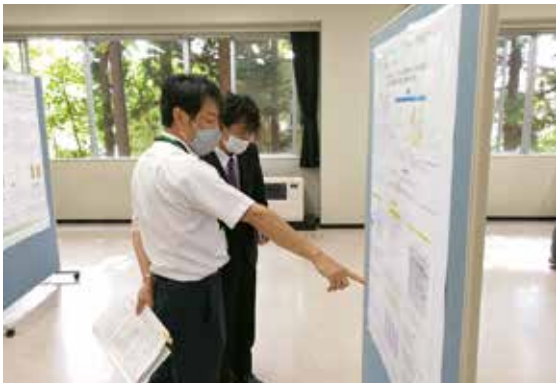
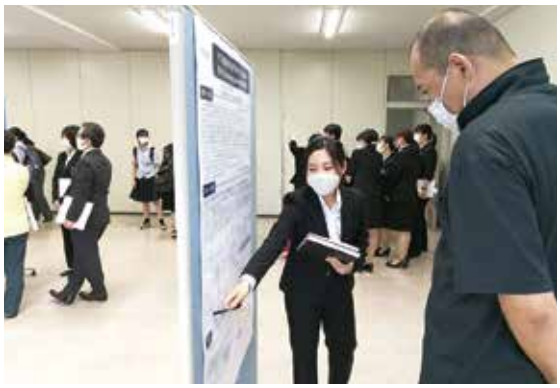
2020 年度 薬学部卒業研究発表会の開催

2020 年 9 月 2 日（水)、2020 年度青森大学薬学部卒業研究発表会が青森大学 5 号館 5103/5104/5205/5206 教室にて開催されました。

青森大学薬学部生は 4 年次から 6 年次の 3 年間、授業や試験、実習を行う傍ら、新たな発見を目指して卒業研究に取り組みます。卒業研究は薬剤師として必要な資質である、「問題発見・解決能力」、「情報収集・分析能力」、「コミュニケーション・プレゼンテーション能力」を育む、非常に重要な科目の一つです。その集大成として、本発表会にてポスターによる発表を行いました。

また、今年度は新たな試みとして、青森山田高等学校の生徒による研究発表への参加が行われました。生徒には「総合的な探求の時間」の一部とし発表に参加してもらい、質問カードを配布し、気になる発表には質問カードを大学生に渡して、それに対して大学生が高校生に答えるという、「思考力・判断力・表現力」の模範を大学生から学習（高大連携プログラム）することを狙いました。

決められた時間内に自らが行った研究の意味や価値、内容を教員、学生、そして高校生の方々にプレゼンテーションした後、様々な質問に対して調べ上げた知識を以て活発なディスカッションが行われました。長期間にわたる卒業研究の締めくくりの一つとして、盛況のうちにつつがなく終了しました。

官学・高大連携事業　平内町夜越山森林公園ツバキ果実採集

去る９月 19 日（土）、平内町夜越山森林公園にて、椿の果実採取が行われました。

これは、「薬学部 SDGs「人・素材・地域 Material Prodution」夏泊の椿油 (最北限のヤブツバキ　天然記念物) 由来のものづくり試作品検討」と、青森山田高校の授業「総合的な探求の時間」の一環として行われました。

当日は青森山田高校特進クラスの１年生と２年生が、薬学部の学生の指導のもと、椿の実の採集に取り組んでおりました。

また、一部の高校２年生は、薬学部学生の指導のもとで椿の実の解体を行い、大きさや重量を測っていました。

その後も重量などの観察を継続するよう、指

導されていました。

高校生にとっては初めてとなった果実採集ですが、自然とたわむれるのを喜ぶ生徒の姿や、積極的に仲間と共同で作業に取り組む姿が見られ、生徒にとって充実感が得られるものとなったようです。

指導した学生にとっても、高校生の頃を思い出しながら、高校生との共同作業を楽しんでいました。

薬学フェスティバル 2020 in 青森大学大学祭 の開催

2020 年 10 月 3 日（土）、10 月 4 日（日）の青森大学大学祭において、薬学部が 5104 室及び 5103 室にブースを設けました。
両日ともに近隣のお客さまに来ていただきました。ありがとうございました。
そして、薬学部の在学生 22 名（6 年生 3 名、5 年生 6 名、4 年生 8 名、1 年生 5 名）には、薬学フェスティバルの準備・運営に全面的に協力をいただきました。

【KARADA すこやか診断】5104 教室

薬学部のブースでは、健康チェックを行っていました。血圧計 以外のチェックは次のものでした。（参加無料、医療機器ではありません）

- 動作年齢チェック（動きのすばやさ）
- 動体視力チェック
- 糖化度チェック
- フットワーク測定（今年初です）

上の 5 種類の健康チェックをコンプリートしたお客様に、アンケートにご協力いただきました。
ありがとうございました。
お越しいただいた皆様には、楽しんでいただいたようでした。

【フレイル・サルコペニア予防の啓発活動】5104 室

オーラルフレイルからの予防啓発活動

老年医学の難しい言葉ですが、口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体の衰え（フレイル）の 1 つです。

自分で気づき対策する（運動・栄養・社会参加）ことで要介護状態を防ぐことにつながります。

今の健康を維持して来年もぜひ遊びに来てください。

【薬研（やげん）Cafe】5103 室

5103 室で「薬研 Cafe」をオープンしました。

参加者自身が薬研を使ってコーヒー豆を挽き、挽いた豆でコーヒーを無料サービスするものです。

なかなか体験できない薬研に、子どもから大人まで楽しそうに挑戦して、自分が挽いたコーヒーを美味しそうに飲んでいました。

【薬剤師体験】5103 室

5103 室で「薬剤師体験」として、薬を袋に入れる 分包機 を体験できるコーナーを設けました。

子どもだけでなく、大人も興味を持ち、楽しそうに体験していました。

[後援] 日本薬学会 東北支部、青森市薬剤師会、青森県病院薬剤師会、青森県薬剤師会
[助成]（公財）青森学術文化振興財団（地域の振興に係る研究・一般）
[3 密対策] 入場に非接触型体温計による検温、手指消毒を実施。

2020 年度青森大学薬学部同窓会の開催中止について

2020 年 11 月 3 日（火）に開催を予定しておりました青森大学薬学部同窓会ですが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。

ご参加をご検討いただいていた教職員関係者や卒業生の皆様には、ご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございません。

なお、次回の同窓会は 2021 年度を予定しております。

日程等が決まりましたら、お知らせいたします。

何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

青森大学薬学部同窓会事務局

2020 年度第 40 回 日本私立薬科大学協会教務部長会議の開催

標記の会議が、2020 年 11 月 6 日（金）に 東奥日報新町ビル　New's TO-O　で開催されました。今年度は、新型コロナ感染防止のため、オンライン会議となりました。会議は、委員校である本学の水野憲一薬学教務委員長を議長として進行しました。司会進行は、本学経営戦略局教務課片岡美里課長補佐が務めました。

討議事項、承合事項が話し合われた後、本学の三浦裕也薬学部長による、「コロナ下の教育激変と薬学教育の在り方について」と題した講演が行われました。

次年度は、兵庫医療大学が委員長校として開催される予定です。

2020 年度第 1 回実務実習発表会の開催

2020 年 11 月 19 日（木）、2020 年度第 1 回実務実習発表会を開催しました。

今回の発表会は、新型コロナウイルスの厄災に対応するため、Zoom 配信もいたしました。その結果、指導薬剤師の先生方が 20 名超、薬学部教員は 20 名程が Zoom で視聴していました。

薬学部 5 年生は、薬局と病院において、それぞれ 11 週間、調剤や服薬指導など参加・体験型の臨床教育を受けます。本学では、青森県をはじめとする多くの保険薬局や病院の協力のもと実務実習を行っています。実務実習終了後は、大学において成果報告を行い、情報共有をしています。

学生達は、実習施設の薬剤師の先生方や担任のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を報告しました。指導薬剤師の先生方や本学教員も多数出席する中で行われましたが、薬局と病院で経験を積んだだけあって、堂々とした発表態度に成長が感じられました。

2021 年度実務実習説明会の開催

2020 年 12 月 19 日（土）、2021 年度実務実習説明会を開催いたしました。

青森大学薬学部における 5 年次の実務実習では、富士ゼロックスの実務実習管理システムを利用しています。

このシステムを導入することにより、実習の効率化及び可視化が図られていますが、年々改良されるため説明会を毎年開催しています。

このシステムを利用した実務実習の進め方に関する説明会を、学生向けと指導薬剤師・教員向けの二部構成で実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス対応のため、富士ゼロックスシステムサービス株式会社の清水氏には Zoom で説明をしていただきました。

そして、指導薬剤師・教員向けの説明会を Zoom で配信しました。大多数の参加者が Zoom で参加していました。好評であれば、新型コロナウイルスが沈静化しても Zoom での配信を検討します。

2020 年度白衣授与式の挙行

2021 年 2 月 2 日（火）午後、青森大学薬学部において 2020 年度白衣授与式を挙行いたしました。

これは、2021 年度の実務実習で使用する白衣と名札を授与し、Student Pharmacist としての誇りを胸に心機一転取り組んでもらうための機会としました。

尚、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対象学生ならびに関係のある教職員のみで挙行いたしました。

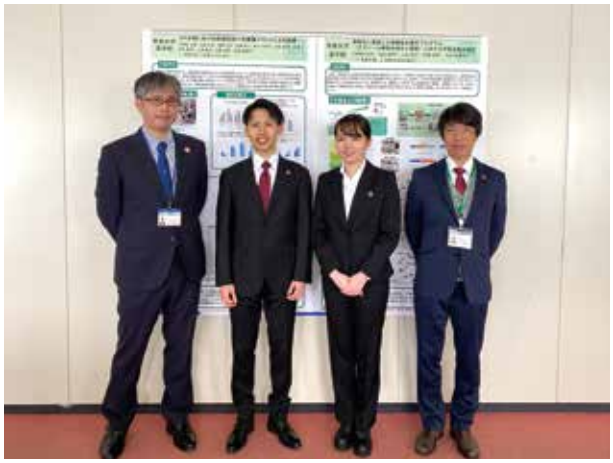
また、この式典は ATV 青森テレビにおいて 2 月 2 日（火）18:15 からの「わっちニュース」で放映されました。

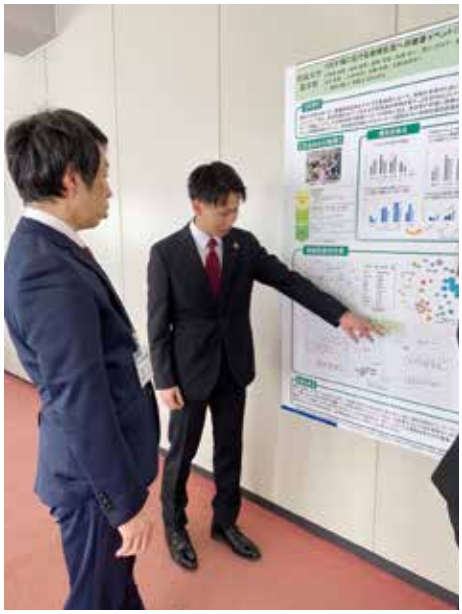
２月３日（水）、ABA 青森朝日放送にて 11:42 からの「ABA ニュース」で放映されました。同じく、２月３日（水）の ABA 青森朝日放送にて 18:15 からの「スーパー J チャンネル ABA」にて放映されました。

情熱無限大 ＡＯＭＯＲＩ ＳＩＸ合同学修研究発表会へ参加

2021 年 2 月 13 日（土）～ 28 日（日）の期間中、『情熱無限大 ＡＯＭＯＲＩ ＳＩＸ合同学修研究発表会』が開催されましたが、その発表会に本学薬学部の学生が参加しました。

今年度は状況を鑑み Web 開催のため、ポスター発表は AomoriSix の HP 上に公開されています。





（写真はポスター発表のイメージです）

青森学術文化振興財団より 2021 年度助成金交付内定

2021 年２月１０日（水）付で、公益社団法人 青森学術文化振興財団より以下の助成金内定をいただきました。

地域とともに生きる大学として、社会に貢献する活動に取り組んで参ります。

【地域の振興に係る研究事業（一般）】

佐藤昌泰・三浦裕也・大越絵実加

地域住民の意識向上に寄与する健康志向の調査

－感覚器機能を用いたフレイル・サルコペニア予防の啓発活動（2 回目）（300 千円）

第８回青森地域フォーラム「今こそ地域が輝くとき」で薬学部教員が発表しました

2021 年 2 月 18 日（木）14 時より、第 8 回青森地域フォーラムがオンラインにて開催され、薬学部から佐藤 昌泰 准教授と多田 智美 助手が発表しました。

◆ 佐藤 昌泰【地域とともに生きる　青森大学薬学部「R02 年度開催の地域貢献事業」】

◆ 多田 智美【薬学教材の開発】

昨年までは、オフラインで発表していましたが、今年は新型コロナウイルスの流行に鑑み、Zoom を利用したオンラインでの発表となりました。

オンラインでは視聴者の反応が分からず、発表しづらい面もありました。

2020 年度第２回実務実習発表会の開催

2021 年 3 月 4 日（木）、令和 2 年度第 2 回実務実習発表会を開催しました。

今回の発表会は、前回同様に新型コロナウイルスの厄災に対応するため、Zoom 配信もいたしました。その結果、指導薬剤師の先生方が 10 名超、薬学部教員は 20 名程が Zoom で視聴していました。

薬学部 5 年生は、薬局と病院において、それぞれ 11 週間、調剤や服薬指導など参加・体験型の臨床教育を受けます。本学では、青森県をはじめとする多くの保険薬局や病院の協力のもと実務実習を行っています。実務実習終了後は、大学において成果報告を行い、

情報共有をしています。

学生達は、実習施設の薬剤師の先生方や担任のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を報告しました。指導薬剤師の先生方や本学教員も多数出席する中で行われましたが、薬局と病院で経験を積んだだけあって、堂々とした発表態度に成長が感じられました。

出張講義などの実施状況

■大越絵実加

1. 令和２年度観光産業の中核を担う人材育成講座
—体験型観光商品を企画・実施できる中核観光人材の育成を目指す—
（後援　国土交通省観光庁）
[主催：青森大学・小樽商科大学共同開催]
「縄文から現代へつながる青森の森と暮らし」
演題「未病を知る～社会とともに歩む～」
（青森大学薬学部教授 / 博士（薬学）大越絵実加）
2020 年 10 月 11 日（日）モヤヒルズ青大ヒュッテ

■岡島史和

青森南高校 UD(University Day- 複数大学による出前講義) の講師として。
＜講義日＞ 2020 年 10 月 30 日（金）
＜講義テーマ＞薬はどうして効くの？
＜対象生徒＞ ２学年生徒（60 分２コマ）

■金光兵衛

出張講義

１）寿大学・大学院（生涯学習）「タンパク質の異常と病気」
2020 年 12 月 2 日（水）戸山市民センター
２）女性大学（生涯学習）「タンパク質の異常と病気」
2020 年 12 月 23 日（水）西部市民センター

模擬講義

１）系列校特別大学見学会（青森山田高校）「生体成分（唾液アミラーゼ）の意義」
2020 年 7 月 16 日（木）、17 日（金）　青森大学

東京キャンパス

東京キャンパス１年生が高校生と交流授業を体験

2020年12月16日（水）、東京都立紅葉川高等学校において、同校1年生6組約250名の高校生と青森大学東京キャンパス1年生27名の学生が交流授業を行いました。この高校・大学のコラボレーション授業は昨年度より実施しているもので、都立高校のカリキュラム「総合的な探求の時間」の一環として行われているものです。

青森大学からは「ボランティア活動」を履修する日本人学生6名、留学生21名の1年生が参加をしました。内容は、8グループ（中国4グループ、ベトナム、韓国、ミャンマー、青森）に分かれ、銘々お国自慢のプレゼンテーションを準備し、高校生に母国、出身地を紹介するというものです。

授業はハプニングが起きながらも和気あいあいの雰囲気、時折笑い声がおきる中で興味深まる刺激的な交流授業となりました。この授業を通じて、紅葉川高校と青森大学のつながりも温かく発展しつつあります。

発表の様子Ⅰ

発表の様子Ⅱ

ベトナム人留学生に支援物資をいただきました

2020年７月中旬ベトナム大使館を通じて、一般社団法人在日ベトナム経営者協会様より本校のベトナム人留学生１３名にお米、マスク等の支援物資をいただきました。

コロナウイルス感染拡大の影響で自粛を余儀なくされ、収入面でも厳しい状況が続いている中で学生達も大変喜んでおりました。久しぶりの母国の味を大いに堪能したのではないでしょうか。

ご支援、ありがとうございました。

今回、いただいたベトナムの支援物資

都内日本語学校にマスクを寄付しました

2020 年 4 月 14 日、青森山田学園本部および青森大学は新型コロナウイルス緊急事態宣言に伴い、早稲田言語学院（新宿区早稲田）、東亜学院日本語学校（港区赤坂）、東京ワールド日本語学校（新宿区百人町）に計 2,500 個のマスクを寄付しました。先方日本語学校の方々は、とても喜んでくださいました。

一日も早くコロナの感染拡大が収束することを心からお祈り申し上げます。

早稲田言語学院にて、
張霖鑫専務理事（写真左）へ
マスクを受け渡す

東京キャンパスの将来構想にかかる意見交換会

日時：2020 年 7 月 9 日（木）・10 日（金）
場所：東京キャンパス 2 階　非常勤控室
参加：岡島理事長、金井学長、宍戸副本部長、小川、長内、小野、加倉井、関、平野、
　　福井、李、小村（議事録）
オンラインによる参加：辻、角田学部長、三浦学部長、中村戦略局長、櫻井次長、
　　牧野次長、木村企画広報室長、葛西

2 日にわたり、東京キャンパスの運営にかかる意見交換会が行われました。プログラムは次の通り。青森キャンパスからの参加もあり、教職員一人ひとりの意見が交わされ有意義な機会となりました。今後は有効な戦略と戦術に落とし込み、実験を経て実現化していくことが求められます。

テーマ 1「第 4 次グランドデザインについて」（岡島理事長）
テーマ 2「将来構想からみた東京キャンパスのブランディング」（金井学長）
テーマ 3「経営戦略に関する事務局からの意見」（長内事務局長）
テーマ 4「人脈情報交換」
テーマ 5「東京キャンパス教員からの意見」（専任・特任全員）
　　まとめ（宍戸副本部長）
　　講評（金井学長）

効果的なオンライン授業の展開に関する情報交換会

前期授業が終了した段階でオンライン授業の課題を共有し、改善しやすい環境づくりをするための情報交換を行いました。混乱ぎみであったオンライン授業の悩みが共有されることによって、後期授業展開へのモチベーションにつながりました。

日時：2020 年 9 月 4 日（金）11:00 ～ 12:00（zoom にて）

参加：李、小川、加倉井、辻、福井、小野、広野、和久井、関

入学者情報

過去３年間の入学者数の推移

	2019 年度	2020 年度	2021 年度
総合経営学部	142	113	114
社会学部	82	72	78
ソフトウェア情報学部	64	51	51
薬学部	54	48	32
計	342	284	275

入学定員・収容定員

	入学定員	収容定員
総合経営学部	110	440
社会学部	70	280
ソフトウェア情報学部	50	200
薬学部	70	420
計	300	1340

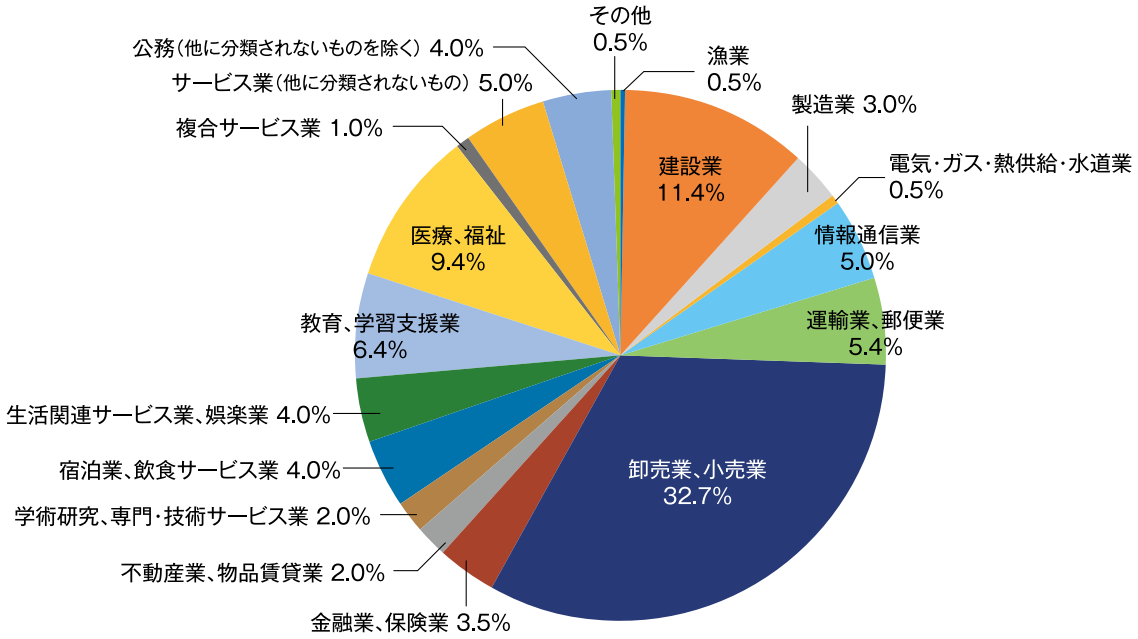
就職情報

就職率　全体　96.2%

【総合経営学部】97.0%　【社会学部】95.2%

【ソフトウェア情報学部】93.5%　【薬学部】100.0%

業種別就職状況



著書・論文等

〈総合経営学部〉

■関智子教授

- 関智子「わが国における北米ウィルダネス研究の先覚者・東良三」青森大学付属総合研究所紀要、第 22 巻第 2 号、pp33-41、2021 年 .
- 関智子「北米ウィルダネス探検の先覚者､東良三　第 1 話 国立公園の紹介者」､國立公園、2021 年 3 月号 .（4 月号、5 月号まで連載）

■平野秀輔教授

「財務会計　第 6 版」（白桃書房）2020 年 3 月

「複式簿記の理論と JA 簿記」（共著 : 白桃書房）2020 年 6 月

「事業の変更等に伴う事業供用要件等を満たさなくなった場合の対応 (特集 コロナ禍における事業の変更・一部撤退の税務対応)」

「税理」2020 年 10 月号　ぎょうせい

「いわゆる「プロラタ計算」を定めた政令が、法の委任の範囲を逸脱した違法なもので、無効であるという判断」

「税務事例」2020 年 3 月号 Vol.52 No.3 通巻 606 号
「ドイツにおける事業承継税制　－立法趣旨及び概要と日本法との比較－」
「アコードタックスレビュー№.11・12　アコード租税総合研究所　2019 年 2 月

■沼田郷教授
「台湾デジタル・スチル・カメラ産業の発展と『日・台』企業連携」、日本大学経済学部経済科学研究所『紀要』第 50 号、2020 年。
「青森県における企業誘致の現状と課題」 青森学術文化振興財団研究助成成果報告書、2020 年。

■飛鳥由美子准教授
「青森県内外の税理士事務所に対するインタビュー調査結果 (調査報告)」『地域経営学研究』地域経営学会 , 第 2 巻第 2 号 ,pp.41-54.(共著)　2021 年 2 月 10 日

■岩淵護准教授
「地域システムから整合化させる価値マネジメント : 青森県下北のモノづくりから捉える企業の誘致と地域の成長」日本経営学会東北部会プロジェクトチーム編『日本経営学会東北部会発グローバル化の中の地域企業 : 経営理念による地域との共創』（文眞堂），2020 年 10 月

〈社会学部〉

■櫛引 素夫
「『コロナ時代』の整備新幹線 - －影響の速報的な整理とオンライン研究･検討の実践報告」、青森大学付属総合研究所紀要、22（1）、pp.22-36

■櫛引 素夫・三原 昌巳
「整備新幹線ネットワーク・2020 年の変曲点－ Covid-19 と建設工事の停滞」、地域社会研究（弘前大学地域社会研究会編）、14 ＝投稿中

■櫛引素夫・竹内紀人・大谷友男・永澤大樹
「新幹線開業が東北北部と九州地方にもたらした変化－ 10 周年オンライン・フォーラムからの検討－」、青森大学付属総合研究所紀要、22（2）＝投稿中

■山田 浩久、宮原 育子、櫛引 素夫、林　玉恵、山口 泰史、初澤 敏生

「Post COVID-19 に向けた東北の観光戦略」、経済地理学年報、66（3）、pp.237-247

●「『絶えざる最適化』どう追求 ―『巨大な条件変更』しての新幹線開業」、九州経済調査月報、75（3）、pp.2-7

◇東洋経済オンライン（http://toyokeizai.net/）連載「新幹線は街をどう変えるのか」

●「『東京志向』だけでない、糸魚川の新幹線活用法／金沢・富山への新幹線通学が定着してきた」、2020 年 4 月 17 日

●「花見できない弘前…新幹線青森開業 10 年目の涙／新型コロナが青森県内有数の観光都市に影響」、2020 年 4 月 22 日

●「新幹線 10 年目の青森、ねぶた中止で試練の夏／暖冬とコロナが影、危機の 1 年どう乗り切るか」、2020 年 5 月 20 日

●「『整備新幹線』、コロナで揺らぐ経済波及効果／過去の事例を参考にできない…地元は苦悩」、2020 年 10 月 11 日

※コメント掲載・放映＝河北新報、東奥日報、北陸中日新聞、青森放送ニュースなど

■佐藤豊

[著書・論文等]

「激動期を生き抜いた桂冠詩人：ジョン・ドライデン」（1 章を担当）、『イギリス文学を旅する 60 章』（石原孝哉編著、明石書店、86 ～ 90 頁）2018 年 8 月 10 日 .

■藤公晴教授

[学会発表]

Yu-Chi Tseng, Sakurai Ryo, Kimiharu To & Yueh-Chu Huang. Pilot Cross-country Survey on Taiwanese and Japanese Undergraduates' Nature Connection. The 17th North American Association for Environmental Education Research Conference, Tucson, Arizona（10 月 9 日）

[原著論文]

Yu-Chi Tseng, Sakurai Ryo, Kimiharu To (2021). Comparison of Connection with Nature, Environmental Attitude, and Intention of Environmental Behavior between Taiwanese and Japanese Undergraduate Students. Special Issue of the Japanese Journal of Environmental Education: EE in Asia. 受理済　2021 年 7 月刊行予定

［報告、論説など］

藤 公晴 (2021) 国際共同研究会の報告『環境教育』77 号 . 一般社団法人日本環境教育学会

藤 公晴、野口扶美子、飯田貴也、二ノ宮リムさち、桜井良、他 8 名 (2021) Environmental education and COVID-19：Impact and Response（環境教育と COVID-19：影響と対応）オンライン・ラウンドテーブルセッション　国際交流委員会報告『環境教育』78 号 . 一般社団法人日本環境教育学会　受理済

藤 公晴（2021）「３人寄らば文殊の知恵」の学習機会を目指して『一般財団法人 青森県工業技術教育振興会会報』第 33 号 5 － 7 ページ

［学会活動］

一般社団法人日本環境教育学会 代議員

国際共同研究会代表

共同編集長 Editor-in-Chief. Special issue of the Japanese Journal of Environmental Education entitled "Environmental Education in Asia" (JJEE-EEA2021).

国際交流委員会副委員長、研究委員

第 31 回年次大会（オンライン）英語報告部会座長、オンライン・ラウンドテーブルセッション分科会座長（8 月 22 日）

3 月研究集会　国際共同研究会主催（3 月 21 日）

〈ソフトウェア情報学部〉

■ Yukihito Suzuki (2020) “A GENERIC formalism for Korteweg-type fluids: II. Higher-order models and relation to microforces”, Fluid Dynamics Research 52(2), 025510.

■ Yukihito Suzuki (2020) “On GENERIC formalisms for complex fluids”, Mathematical Analysis in Fluid and Gas Dynamics, RIMS Kokyuroku 2155, pp.180—191.

■ Maki,S., Kuroda,S.,Fujiwara,S., Tanaka,S., Erzalia,E., Kato,M.. Higo,K., Arata,T. and Nakagaki,T (2020) “Thermal Conductivity and Thermal Diffusivity of Slime Mold (Physarum Polycephalum)”, Biomedical Journal of Scientific & Technical, DOI: http://dx.doi.org/10.26717/BJSTR.2020.31.005090 (5pp)

■ Fukushima,Y., Yamaguti,Y.,Kuroda,S.,Aihara,T., Tsuda,I. and Tsukada,M., (2020) “Physiological properties of Cantor coding-like iterated function system in the hippocampal

CA1 network", Cognitive Neurodynamics, DOI: https://doi.org/10.1007/ (8pp)

■ Hotaek Park, Eiji Watanabe, Youngwook Kim, Igor Polyakov, Kazuhiro Oshima, Xiangdong Zhang, John S. Kimball, Daqing Yang, Increasing riverine heat influx triggers Arctic sea ice decline and oceanic and atmospheric warming. Science Advances, 2020. 海洋研究開発機構（JAMSTEC）プレスリリース，http://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/20201107/

［著書、編書］

■ Ogata, T. & Ono, J. (Eds.) (2020). Bridging the Gap Between AI, Cognitive Science, and Narratology with Narrative Generation. Hershey, PA, USA: IGI Global.

■ Ono, J. & Ogata, T. (2020). Haiku Generation from Narratological Perspective: A Circulation Between Haikus and Stories. In T. Ogata & J. Ono, (Eds.), Bridging the Gap Between AI, Cognitive Science, and Narratology with Narrative Generation. Hershey, PA, USA: IGI Global, 249-265.

■小野淳平・小方孝 (2021). 物語自動生成ゲームにおける驚きと物語－驚きに基づくストーリー生成のためのギャップ技法 , in 小方孝（編）,『ポストナラトロジーの諸相－人工知能の時代のナラトロジーに向けて 1』. 東京 : 新曜社 . (2021 年 3 月 25 日出版予定)

■ Ono, J., & Ogata, T. (2020). Unchiku Generation Using a Narrative Explanation Mechanism. In E. Ishita, N. L. S Pang & L. Zhou (Eds.) Digital Libraries at Times of Massive Societal Transition (LNCS 12504), 240-247. Switzerland: Springer Nature.

Kawai, M., Ono, J., & Ogata, T. (2020). Analyzing the Stage Performance Structure of a Kabuki-Dance, Kyoganoko Musume Dojoji, Using an Animation System. In E. Ishita, N. L. S Pang & L. Zhou (Eds.) Digital Libraries at Times of Massive Societal Transition (LNCS 12504), 248-254.Switzerland:

〈薬学部〉

■松本美佐子

Matsumoto , M., Y. Takeda, and T. Seya. Targeting endosomal TLR3 in dendritic cells for cancer immunotherapy. Exp Opin Biol Ther. 20 (8): 937-946, 2020.

■瀬谷 司

がん微小環境と Toll-like receptor 2 (TLR2), 臨床免疫アレルギー科 75: 650-655, 2021

創薬研究者・アカデミア研究者が知っておくべき最新の免疫学とその応用技術、アジュバント の安全性 , 有効性評価のポイント、技術情報協会 2021

■大越絵実加

Kunihiro Kajiura, Naoki Umemura, **Emika Ohkoshi**, Takahisa Ohta, Nobuo Kondoh, Satoshi Kawano: Shikonin induces odontoblastic differentiation of dental pulp stem cells via AKT–mTOR signaling in the presence of CD44. Connective Tissue Research（2021）（https://doi.org/10.1080/03008207.2020.1865937）

■岡島史和

Musha S, Yoshida S, Murakami S, Kojima R, Deai M, Saso N, Mogi C, Sato K, **Okajima F,** Tomura H.: Involvement of GPR4 in increased growth hormone and prolactin expressions by extracellular acidification in MtT/S cells. ***J Reprod Dev.*** 2020 Apr 10;66(2):175-180. doi: 10.1262/jrd.2019-159.

Murakami S, Mochimaru Y, Musha S, Kojima R, Deai M, Mogi C, Sato K, **Okajima F,** Tomura H.: Species-Dependent Enhancement of Ovarian Cancer G Protein-Coupled Receptor 1 Activation by Ogerin. ***Zoolog Sci.*** 2020 Apr;37(2):103-108. doi: 10.2108/zs190106

Sato K, Mogi C, Mighell AJ, **Okajima F.**: A missense mutation of Leu74Pro of OGR1 found in familial amelogenesis imperfecta actually causes the loss of the pH-sensing mechanism. ***Biochem Biophys Res Commun.*** 2020 Jun 11; 526(4):920-926. doi: 10.1016/j.bbrc.2020.04.005. Epub 2020 Apr 10.

Sato K, Tobo A, Mogi C, Tobo M, Yamane N, Tosaka M, Tomura H, Im DS, **Okajima F.**: The protective role of proton-sensing TDAG8 in the brain injury in a mouse ischemia reperfusion model. Sci Rep. 2020 Oct 14;10(1):17193. doi: 10.1038/s41598-020-74372-7.PMID: 33057165

■上家勝芳

上家勝芳：６年制薬学教育の現状と課題：評価報告書を比較して . 青森大学付属総合研究所紀要 . 2020 Sep; 22 (1): 15-22.

■川村仁

川村仁、村松章伊、田尻泰典他:錠剤・カプセル状の形状を有する食品の崩壊試験（第２報）～機能性表示食品を対象として～；日本薬剤師会雑誌、72(12)、17-22、2020

■木立由美，上家勝芳

Anna Lohning, **Yumi Kidachi**, **Katsuyoshi Kamiie**, Kazuo Sasaki, Kazuo Ryoyama, Hideaki Yamaguchi: 6-(methylsulfinyl)hexyl isothiocyanate (6-MITC) from Wasabia japonica alleviates inflammatory bowel disease (IBD) by potential inhibition of glycogen synthase kinase 3 beta (GSK-3 β). ***European Journal of Medicinal Chemistry.*** Available online 13 February 2021, 113250. doi.org/10.1016/j.ejmech.2021.113250

■鈴木克彦

Arai, K.; Ohtake. A.; Daikoku, S.; **Suzuki, K.**; Ito, Y.; Kabayama, K.; Fukase, K.; Kanie. Y.; Kanie. O.; Discrimination of cellular developmental states focusing on glycan transformation and membrane dynamics by using BODIPY-tagged lactosyl ceramides; *Org. Biomol. Chem., 18,* 3724 (2020).

■中田和一

【研究成果報告書】

中田和一；航空需要に対応する海上設置型ローカライザの設置条件に関する研究，
研究期間 2016 年度～ 2019 年度，学術研究助成基金助成金，課題番号 16K06364

■益見厚子，上家勝芳

Makoto Sakurai, Ikumi Aizu, Marina Tonosaki, Yuko Oba, Mei Nagata, **Katsuyoshi Kamiie**, **Atsuko Masumi**: Sorghum (Sorghum bicolor (L.) Moench) Extract Enhances Thiazolidinedione-

Induced 3T3-L1 Preadipocyte Differentiation but Inhibits Adipogenic Genes. ***BPB reports.*** 2021 Jan; 4(1): 6-11. doi.org/10.1248/bpbreports.4.1_6

■益見厚子

Atsuko Masumi, Yuko Oba, Marina Tonosaki, Ikumi Aizu, Krisana Asano, Akio Nakane. Thiazolidinediones Downregulate PPAR γ Expression via Induction of aP2 During Mouse 3T3-L1 Preadipocyte Differentiation. ***BPB reports.*** 2020 Jul; 3(4): 119 – 125. doi.org/10.1248/ bpbreports.3.4_119

■川村仁

【コラム執筆】

1．新型コロナウイルス感染症の現状と防止対策について；日本薬剤師会雑誌、73(2)、45、2021

社会活動・地域活動・講演・発表等

〈総合経営学部〉

【社会活動、地域活動、講演など】

- 5 月 12 日 (火)　日本環境 NPO ネットワーク 理事会・総会（zoom）
- 5 月 24 日 (日)　エコネット遠野「講習会」講演・実地指導（岩手県遠野市）
- 5 月 30 日 (土)　みちのくトレイルクラブ 理事会・総会（zoom）
- 6 月 5 日 (金)　RQ 災害教育センター総会（zoom）
- 6 月 22 日 (月)　観光庁「観光産業中核人材育成講座」第 1 回全体会議（zoom)
- 8 月 4 日 (火)　青森山田高校 SDGs 活動 @ 八甲田山 ガイド
- 8 月 7 日 (金)　「青森県森林組合連合会・県木住」視察・打合せ
- 8 月 10 日 (月)　日本の森バイオマスネットワーク理事会（zoom)
- 8 月 27 日 (木)　「樹氷国際ブランド化推進会議」総会＠ホテル青森

- 8 月 29 日 (土) 「あおもりセラピーガイド養成講座」青森中央学院大学
- 9 月 1 日 (火) 「環境省事業打ち合わせ会議：小樽商科大学」（zoom）
- 9 月 3 日 (木) 日本環境 NPO ネットワーク理事会（zoom）
- 9 月 5 日 (土) ～ 6 日 (日) 「八郎プロジェクト」視察＠八郎潟・秋田県立大学
- 9 月 7 日 (月) RQ 災害教育センター理事会（zoom）
- 9 月 8 日 (火) 「雲谷プロジェクト」会議
  「観光庁事業打ち合わせ会議：小樽商科大学」（zoom）
- 9 月 10 日 (木) 日本の森バイオマスネットワーク理事会（zoom）
- 9 月 29 日 (火) 「ラフティング視察体験」A グローブ＠西目屋村
- 10 月 3 日 (土) 日本エコツーリズムセンター「エコツアーカフェ」＠青森大学 SDGs 研究センター
- 10 月 13 日 (火) みちのくトレイルクラブ全体会議（zoom）
- 10 月 16 日 (金) 青森県印刷工業組合「なぜ、今 SDGs なのか」講演＠青森県火災共済会館
- 10 月 27 日 (火) 「日本環境 NPO ネットワーク・セブンイレブン記念財団」会議（zoom）
- 10 月 30 日 (金) ～ 11 月 1 日 (日) 「中海の自然再生と循環型社会の再構築」講演＠自然再生センター＠島根県松江市
- 11 月 2 日 (月) 「環境省事業打ち合わせ会議：小樽商科大学」（zoom）
- 11 月 10 日 (火) 「雲谷プロジェクト」会議　青森大学ヒュッテ（モヤヒルズ）
- 11 月 18 日 (水) ～ 19 日 (木) 環境省事業「みちのく潮風トレイル推進視察」名取市長随行
- 12 月 22 日 (火) 「国立公園等の誘客シンポジウム」講演＠環境省十和田ビジターセンター
- 1 月 9 日 (土) 「タネは誰のもの」青森上映会＠実行委員長
- 1 月 26 日 (火) 日本環境 NPO ネットワーク理事会 (zoom)
- 2 月 11 日 (木) RQ 災害教育センター理事会（zoom）
- 2 月 14 日 (日) ブルーピースシンポジウム（zoom）
- 2 月 16 日 (火) みちのくトレイルクラブ全体会議（zoom）
- 2 月 21 日 (日) ～ 22 日 (月) 「大鰐温泉街歩き＆ヘルスツーリズムモニターツアー」
- 3 月 1 日 (月) 観光庁「観光産業中核人材育成講座」第 2 回全体会議（zoom)

■関智子教授

- 12 月 5 日　教員免許状更新講習「自然と人間の関係性」に着目した子どもが親しみや

すい環境教育」

- 8 月 21 日　中央環境審議会自然環境部会自然公園等小委員会（専門委員）
- 1 月 26 日　〃

■中田吉光教授

- 1 月 20 日　青森県スポーツ大賞（国際ホテル）を受賞
- 1 月 23 日　青森市スポーツ奨励賞（ホテル青森）を受賞
- 1 月 25 ～ 26 日　男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（岩手：滝沢勤労者体育センター）として 150 名の参加
- 2 月 17 日　青森市スポーツ推進審議会（福祉増進センター）に出席
- 2 月 22 日　青森県体操協会理事会（社協センター）に出席
- 2 月 23 ～ 24 日　山形県新体操合同合宿として学生派遣
- 9 月 18 ～ 21 日　「２０２０新体操フェスタ岐阜」第 5 回全日本男子新体操クラブ選手権大会・第 28 回全日本男子新体操社会人選手権大会・2020 マスターズＲＧレディースの審判員として参加（岐阜メモリアルセンターで愛ドーム）
- 11 月 26 日　株式会社日本医療企画『月刊 老施協』の「チームのチカラ」と題し、取材を受ける。2021 年 1 月号に掲載される。
- 11 月 28 日　青森県体操協会理事会（社協センター）に出席
- 11 月 3･17 日　青森県立青森第二養護学校の高等部 61 名に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。
- 11 月 4･18 日　青森県立青森第二養護学校の中学部 47 名に新体操の実演並びにマット運動の指導を本学新体操部員とともに行う。中等部指導の後には小学部児童を向かい入れ演技鑑賞を行った。
- 2 月 15 日　青森市スポーツ推進審議会（中央市民センター）に出席
- 2 月 20 日　青森県体操協会理事会（社協センター）に出席

■平野秀輔教授

- 8 月 7 日　　講演：JA 岩手　グループ監事研修会
- 10 月 14 日　講演：農林水産省大臣官房　検査・監査部　会計研修
- 10 月 27 日～ 28 日　講演：神奈川農業協同組合　経営分析研修
- 11 月 18 日～ 20 日　講演：株式会社農林中金アカデミー　資産査定研修

■沼田郷教授

1月　青森市産官学連携プラットフォーム　AOMORI SIX 合同学修・研究発表会
　　出展：大鰐温泉もやし応援団（キャリア特別実習　スピンアウト企画）
　　中村農園との連携事業（沼田ゼミ）
　　「柳町商店街」活性化プロジェクト（沼田チーム）
　　青森地域フォーラム（青森大学地域貢献センター）
2月　青森中央高校　出張講義　「課題研究の進め方に関する講義」
〃　　青森産業会館ユーザー会懇談会（津軽海峡ブランド認証委員会長）
　　於：国際ホテル
5月　まるごと平内ブランド会議　（平内町役場）
〃　　青森中央高校　出張講義　「課題研究の進め方に関する講義」
〃　　平内町　人・まち・仕事創生会議　（平内町役場）
6月　津軽海峡ブランド認証委員会　正副会長会議　　於：青森産業会館
7月　青森県消費生活審議会及び青森県消費者教育推進協議会　（於：アラスカ）
　　青森県消費者生活審議委員就任
　　（任期：2020 年 2 月 1 日～ 2022 年 1 月 31 日まで）
　　青森県消費者教育推進地域協議会委員就任
　　（任期：2020 年 2 月 1 日～ 2022 年 1 月 31 日まで）
8月　財務省東北経済局局長来校　（青森大学）
9月　進路ガイダンス　教員派遣　「経済（学）に関する講義」　於：浪岡高校
〃　　青森創生人財育成・定着推進協議会（主催：弘前大学　於：ホテル青森）
10 月　青森財務事務所所長による出張講義　（於：青森大学）
　　NHK アップルワイドで放映、東奥日報掲載（10 月 31 日：17 面）。
　　財務行政モニター（委嘱：再任　2022 年 9 月まで）
11 月　津軽海峡ブランド認証委員会　正副会長会議（於：青森大学）
〃　　学生による消費生活フェスタ
　　主催：青森県消費者生活センター　於：新町キューブ
12 月　津軽海峡ブランド認証委員会　打ち合わせ　（於：青森大学）
〃　　青森中央高校学習成果発表会　（審査員として出席）
2月　青森市産官学連携プラットフォーム　AOMORI SIX 合同学修・研究発表会
　　出展：もう田舎なんて言わせない」（沼田チーム）
　　ワーク・ライフ・バランス実現に向けた取り組み（沼田ゼミ）

人口から読み解く仙台市の未来（経営学演習クラス）
２月　津軽海峡ブランド　正副会長会議　2021 年度事業計画案の作成
東奥日報「ニュース力アップ」隔週連載中

■飛鳥由美子准教授

- 7 月 3 日　令和 2 年度第 1 回青森地方最低賃金審議会 (於：青森合同庁舎)
- 7 月 29 日　令和 2 年度第 2 回青森地方最低賃金審議会 (於：青森第二合同庁舎)
- 8 月 7 日　令和 2 年度第 3 回青森地方最低賃金審議会 (於：青森合同庁舎)
- 8 月 25 日　令和 2 年度第 4 回青森地方最低賃金審議会 (於：青森合同庁舎)
- 9 月 14 日　令和 2 年度第 5 回青森地方最低賃金審議会 (於：青森合同庁舎)
- 9 月 28 日　青森県金融広報委員会学習グループ「青森大学総合経営学部金融学習グループ AMZ」の取り組みとして、森ゼミ・松本ゼミの 3 年生を対象として「暮らしとお金 (税金)」をテーマに特別講義を実施。
- 9 月 30 日　令和 2 年青森県各種商品小売業最低賃金専門部会 (於：青森合同庁舎)
- 10 月 5 日　令和 2 年青森県電気機械器具等製造業最低賃金専門部会 (於:青森合同庁舎)
- 10 月 13 日 令和 2 年度第 6 回青森地方最低賃金審議会 (於：青森合同庁舎)
- 11 月 16 日 青森県金融広報委員会学習グループ「青森大学総合経営学部金融学習グループ AMZ」の取り組みとして、森ゼミ・松本ゼミの 3 年生を対象として「お金を借りる」をテーマに特別講義を実施。
- 12 月 14 日「令和 2 年度青森県の商業教育における高大連携推進協議会」(於：アップルパレス青森
- 1 月 18 日　第 1 回青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会 (於：青森合同庁舎)
- 1 月 26 日　第 2 回青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会 (於：青森合同庁舎)

■岩淵護准教授

「日本経営学会理事会」へ Zoom 参加（東北部会事務局：2020 年 9 月 2 日）
「東北部会発 : グローバル化と地域企業の再編」日本経営学会・第 94 回全国大会（慶応大学・Zoom）東北部会発ワークショップ座長報告 (2020 年 9 月 3 日)
日本経営学会東北部会例会・総会が東北学院大学、宮城学院女子大学を主催校として Zoom 開催された（東北部会事務局：2020 年 12 月 12 日）
日本経営学会東北部会例会が石巻専修大学を主催校として Zoom 開催された（東北部会事務局：2021 年 2 月 27 日）

「東北部会発 : グローバル化の中の地域企業－リスク管理と地域社会の未来（仮）」日本経営学会・東北部会例会（石巻専修大学・Zoom）座長報告ならびに共著プロジェクトの提案 (東北部会事務局：2021 年 2 月 27 日)
「日本経営学会理事会」へ Zoom 参加予定 (東北部会事務局：2021 年 3 月 11 日)
「アジア市場経済学会理事会」へ Zoom 参加予定 (2021 年 3 月 21 日)
特定非営利活動法人ひろだいリサーチ　2020 年度通常総会に参加（2020 年 6 月 20 日）
弘前大学大学院地域社会研究科主催「令和 2 年度公開セミナー産学官金連携の可能性 : 地域商社とふるさと納税を中心に（五所川原商工会会館）」において総合司会を務める (2020 年 11 月 28 日)

■松本大吾准教授

- 7 月 29 日　一般社団法人日本ドローン活用推進機構令和 2 年度第 1 回理事会に出席。副代表理事就任。
- 8 月 29 日　日本簿記学会第 36 回全国大会にオンライン参加。
- 9 月 4 日　青森県県土整備部県営住宅等指定管理者審査委員会（第 2 回）に委員として出席。
- 9 月 11 日　青森県県土整備部県営住宅等指定管理者審査委員会（第 3 回）に委員として出席。
- 9 月 12 日　日本会計教育学会第 12 回全国大会にオンライン参加。
- 9 月 14 日　地域経営学会理事就任。
- 9 月 18 日　一般社団法人日本ドローン活用推進機構令和 2 年度第 2 回理事会に出席。
- 9 月 24 日　青森県金融広報委員会学習グループ「青森大学総合経営学部金融学習グループ AMZ」の取り組みとして、森ゼミ・飛鳥ゼミの 2 年生を対象として「有価証券報告書」をテーマに特別講義を実施。
- 9 月 24 日　日本商工会議所主催「日商簿記検定試験（２級・３級）の新たな施行方法に関する説明会」にオンライン参加。
- 10 月 25 日　全国ビジネス系大学教育会議理事会にオンライン参加。
- 11 月 15 日　一般社団法人日本ドローン活用推進機構令和 2 年度第 3 回理事会に出席。
- 11 月 19 日　青森県金融広報委員会学習グループ「青森大学総合経営学部金融学習グループ AMZ」の取り組みとして、森ゼミ・飛鳥ゼミの 2 年生を対象として「ライフプラン」をテーマに特別講義を実施。
- 12 月 10 日　一般社団法人日本ドローン活用推進機構令和 2 年度第 2 回 4 役会に出席。

- 12 月 23 日　「令和 2 年度青森商業高等学校生徒商業研究発表大会」に来賓として出席。
- 1 月 28 日　　一般社団法人日本ドローン活用推進機構令和 2 年度第 4 回理事会に出席。
- 2 月 12 日　　全国ビジネス系大学教育会議幹事会に幹事としてオンライン参加。
- 2 月 13 日　　「第 3 回情熱無限大 AOMORI SIX 合同学修・研究発表会」（Web 会場）にゼミ生（西舘彩寧）の発表資料（「2020 年度総合経営学部卒業研究発表大会」において最優秀賞およびパフォーマンス賞を受賞）を出展。

〈社会学部〉

■櫛引素夫

特定非営利活動法人青森県防災士会理事

特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事

青森地方労働審議会委員

青森地方労働紛争担当参与

青森地方労働審議会青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会長

青森県農村地域資源の保全管理の推進に関する第三者委員会委員

青森県三内丸山遺跡センター運営協議会委員

JAF 青森支部交通安全実行委員長

敦賀市・新幹線敦賀開業まちづくり推進会議アドバイザー

上越市・信越県境地域づくり交流会地域研究グループ企画編集会議委員

青森市町会連合会広報委員会・町連だより編集委員

青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員

青森 KEN 民塾世話人

あおもり地域編集会議副代表

協同組合青森総合卸センター SDGs 推進委員会委員長

■田中志子

一般財団法人　国立療養所松丘保養園松桜会理事

社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団　障害者総合福祉センターなつどまり苦情解決第三者委員・虐待防止規定第三者委員

公益社団法人青森県老人福祉協会外国人介護人材受入支援推進委員会委員

■藤公晴
青森県環境審議会 会長（2018 年 11 月～）
東北環境パートナーシップオフィス事業検討委員（2019 年 6 月～）
平内町ハクチョウのまち再生事業実行委員会委員長（2018 年 6 月～）
青森県立東高等学校 PTA 副会長（2020 年 4 月～）
青森県立東高等学校東朋会理事（2020 年 4 月～）
Hult Prize JAPAN, Impact Council member (2019 年 6 月～)

■宮川愛子
社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団就労サポートセンターさつき　第三者委員
社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団就労サポートセンターはくちょう　第三者委員
有限会社サン・ショウ　サングループホーム横内　身体的拘束等適正化委員
社会福祉法人みつば会　青森山田こども園　監事
社会福祉法人桐紫会　障害者支援施設こぶし園　第三者委員

[学会発表など]
■櫛引 素夫
「東北の空路と新幹線に及んだ COVID19 の影響」、経済地理学会北東支部・オンライン研究集会「Post-COVID19 に向けた東北の観光戦略」（2020 年 8 月 8 日）

■櫛引 素夫
「新幹線駅エリアの『メディア化』が持つ地理学的な可能性と課題（続報）－コロナ禍の影響と克服の試み－」、日本地理学会・秋季学術大会（2020 年 9 月、ポスター発表・オンライン）

■櫛引 素夫
「『ウィズ・コロナ』時代の整備新幹線の行方」、東北地理学会・秋季学術大会（2020 年 10 月 10 日、オンライン）

■櫛引 素夫
「リニア中央新幹線 Post COVID-19 への視点－整備新幹線沿線から考える」、愛知大学・三遠南信連携地域研究センター第 8 回越境地域政策研究フォーラム、2021 年 2 月 27 日（オ

ンライン）

■櫛引素夫・竹内紀人・大谷友男・永澤大樹
「整備新幹線は北東北と九州をどう変えたのか；開業 10 年目の検討」、日本地理学会・春季学術大会（2020 年 3 月 26 ～ 28 日、オンライン＝予定）

［フォーラム主催］
- オンライン勉強会「地理必修化を東北から考える」、2020 年 6 月 27 日（「地理必修化を東北から考える」実行委員会事務局として、三橋浩志、山内洋美、廣瀬俊介と共催、東北地理学会後援）
- 新幹線オンライン・フォーラム「新幹線は地域をどう変えるのか－ウィズ・コロナ時代に向けて」、2020 年 7 月 4 日（あおもり新幹線研究連絡会と共催）
- 東北新幹線開業 10 周年記念オンライン・フォーラム「東北新幹線は何をどう変えたかコロナ時代にどう変わるか」、2020 年 12 月 4 日（あおもり新幹線研究連絡会と共催）

〈ソフトウェア情報学部〉

特別授業・講演（角田均）
- 弘前南高校 SSH クラス向け特別授業「データの分析と処理　科学研究に必要な統計学」(2020/08/26)
- 令和 2 年度東北地区 SSH 教員報告会「新しい時代の学校の姿を考える～オンライン授業とリモートワークの実践経験を通じて感じたこと～」(2020/10/10)
- 令和 2 年度青森大学付属総合研究所シンポジウム「IT の描く未来」(2021/02/19)

演奏会出演等（白岩貢）
- 今別町立今別中学校　オペラ鑑賞教室（2020 年 9 月 7 日）
- 青森市文化観光振興財団「おでかけクラシック 2020」
  - ▶青森市立戸山西小学校（2020 年 10 月 23 日）
  - ▶青森市立本郷小学校、青森市立篠田小学校（2020 年 10 月 26 日）
- 埼玉県吉川市「音楽玉手箱」（2020 年 11 月 1 日）
- 地域貢献演習 C クラス　ミニコンサート＆ベートーヴェン「第九」合唱（2020 年 12 月 16 日、オープンカレッジと共催）

事業参加・セミナー実施（鹿内史）

- 青森県消費生活センター多言語リーフレット事業
  - ▶消費生活相談多言語リーフレット作成指導（2020 年 7 月～ 10 月）
    ◎中国語（繁体字・簡体字）、韓国語（http://www.aca.or.jp/contents/post-4232/）
  - ▶「学生による消費生活フェスタ」：消費生活相談多言語リーフレット作成に関するポスター・動画発表指導（2020 年 11 月 29 日）
- グローバル英語共同セミナー（11 月 9 日～ 12 月 25 日）
  - ▶提携大学である実践大学 (台湾)TESOL コースの学生と本学の学生が参加した、Zoom を使った英語での就職面接方法を学ぶ共同セミナー

ワークショップ企画（小野淳平）

- The 2021 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2021) オーガナイズドセッション企画 2021.1.21 (Thu)
- セッション名：Bridging the Gap Between AI, Cognitive Science, and Narratology
- Chair: 小野淳平 (青森大学), Co-Chair: 福島宙輝 (九州女子大学), Co-Chair: 小方孝 (岩手県立大学)
- 角田均「オンライン授業の実施検証と応用研究」, 2020 年度青森大学教育研究プロジェクト中間報告 (2020/12/14)

【学会、研究会、セミナー、発表】

- 角田均「みずしるべ調査成果共有プラットフォームの運用と活用」, 2020 年度日本水環境学会東北支部第 7 回「水辺のすこやかさ指標」ワークショップ (2021/03/26)
- Yukihito Suzuki, “A numerical method based on the Nambu bracket for the three-dimensional vorticity equation”, OCAMI Joint Usage/Research, Space-time topology behind formation of micro-macro magneto-vortical structure manifested by Nambu mechanics, 2020/9/28 – 10/1.
- 黒田茂「前神経細胞の出現が上皮系の運動に及ぼす影響 : 数理モデルによる検討」日本応用数理学会 2020 年 年会 (2020 年 9 月 8 日)
- 黒田茂「上皮系における前神経細胞の出現が及ぼす影響について : 動きの進化の観点から」日本動物学会 第 91 回大会 2020（2020 年 9 月 4 日)
- Kazuhiro Oshima, Hotaek Park, Masatake. E. Hori, and Yasuhiro Yoshikawa, “Influence of Springtime Okhotsk High on Rapid Discharge Increase Accompanied by River Ice

Melt in Eastern Siberia". The 11th Symposium on Polar Science (Online), November 16 – December 18. 2020.

- Kazuhiro Oshima, Hotaek Park, Masatake. E. Hori, and Yasuhiro Yoshikawa, "Influence of springtime Okhotsk high on rapid discharge increase accompanied by river ice melt in eastern Siberia". Arctic Science Summit Week 2021 (Online Science Conference), March 24 – 26 2021.（予定）
- Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Evaluating the Contents Generated by an Automatic Narrative Generation Game, 2020 年度 人工知能学会全国大会（第 34 回）論文集 (熊本 , オンライン), 2020/6/9.
- 小野淳平（青森大学）・伊藤拓哉・福田和維・河合珠空・小方孝（岩手県立大学）, 説明によるストーリー構造の拡張 , FIT2020 第 19 回情報科学技術フォーラム (北海道大学 , オンライン), 2020/9/1.
- 小野淳平（青森大学）・伊藤拓哉・小方孝（岩手県立大学）,「統合物語生成システムにおける説明生成機構の実装に向けて」, 2020 年度日本認知科学会第 37 回大会 (岐阜大学 , オンライン), 2020/9/17-19.
- 小野淳平（青森大学）・福田和維・河合珠空・小方孝（岩手県立大学）,「システム実装を通じた蘊蓄生成機構の考察」, 2020 年度日本認知科学会第 37 回大会 (岐阜大学 , オンライン), 2020/9/17-19.
- Ono, J. (Aomori University), Kawai, M. & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Implementation of an Explanation Generation Mechanism Using Attribute Frames and a Noun Conceptual Dictionary, The 3rd International Conference on Computational Intelligence and Intelligent Systems (CIIS 2020) (Waseda University, Online), 2020/11/15.
- Ono, J. (Aomori University), Kawai, M. & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Love and Sex Narrative Generation Using Narrative Units and Conceptual Dictionaries, The 5th International Congress on Love & Sex with Robots (LSR2020) (Online), 2020/12/7.
- Ono, J. (Aomori University), Kawai, M. & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Toward Explanation-Centered Story Generation. Poster presented at the 3rd IEEE Artificial Intelligence & Knowledge Engineering (AIKE) (Irvine, CA, Online), 2020/12/11.
- Ono, J. (Aomori University), Kawai, M. & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Unchiku Generation with Moving Illustration Using Kabuki Knowledge, 2021 the International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB 2021) (Online),

2021/1/21.

- 河合珠空（岩手県立大学）・小野淳平（青森大学）・小方孝（岩手県立大学）,「歌舞伎舞踊『京鹿子娘道成寺』の舞台上演構造の分析」, 2020 年度 人工知能学会全国大会 (第 34 回) 論文集 (熊本 , オンライン), 2020/6/11.
- 小方孝・福田和維（岩手県立大学）・小野淳平（青森大学）・伊藤拓哉（岩手県立大学）,「歌舞伎の物語における綯い交ぜの方法の検討とその一方法」, 2020 年度 人工知能学会全国大会 (第 34 回) 論文集 (熊本 , オンライン), 2020/6/11.
- 福田和維（岩手県立大学）・小野淳平（青森大学）・小方孝（岩手県立大学）,「物語生成システムへの蘊蓄生成機構の導入」, 2020 年度 人工知能学会全国大会 (第 34 回) 論文集 (熊本 , オンライン), 2020/6/11.
- 河合珠空（岩手県立大学）・小野淳平（青森大学）・小方孝（岩手県立大学）,「歌舞伎舞踊『京鹿子娘道成寺』の舞台上演構造の分析と KOSERUBE を用いた視覚化」, FIT2020 第 19 回情報科学技術フォーラム (北海道大学 , オンライン), 2020/9/1.
- 河合珠空（岩手県立大学）・小野淳平（青森大学）・小方孝（岩手県立大学）,「歌舞伎舞踊の舞台上演構造 ―『京鹿子娘道成寺』の調査・分析と再現―」, 2020 年度日本認知科学会第 37 回大会 (岐阜大学 , オンライン), 2020/9/17-19.
- 青木慎一郎・小方孝（岩手県立大学）・小野淳平（青森大学）,「物語生成論による自閉スペクトラム症の理解」, 2020 年度日本認知科学会第 37 回大会 (岐阜大学 , オンライン), 2020/9/17-19.
- Kawai, M. (Iwate Prefectural University), Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Analysis and Generation of the Narrative Elements in a “Dojoji” Story, The 3rd International Conference on Computational Intelligence and Intelligent Systems (CIIS 2020). (Waseda University, Online), 2020/11/15.
- Ito, T. (Iwate Prefectural University), Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Programmed Narrative Units Using the Verb Conceptual Dictionary of an Integrated Narrative Generation System, The 3rd International Conference on Computational Intelligence and Intelligent Systems (CIIS 2020) (Waseda University, Online), 2020/11/15.
- Kawai, M. (Iwate Prefectural University), Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Dual Story Generation Based on Love and Extreme Emotions, The 3rd The 5th International Congress on Love & Sex with Robots (LSR2020) (Online), 2020/12/8.

- Kawai, M. (Iwate Prefectural University), Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Explanation Generation in a Kabuki Dance Stage Performing Structure Simulation System, The 2020 International Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI2020) (Las Vegas, NV, Online), 2020/12/16-18.
- Kawai, M. (Iwate Prefectural University), Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Analysis and Construction of Elements of the Stage Performance Structure in a Kabuki-dance, 2021 the International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2021) (Online), 2021/1/21.
- Ito, T. (Iwate Prefectural University), Ono, J. (Aomori University) & Ogata, T. (Iwate Prefectural University), Implementing Story Units of Japanese Folktales with Conceptual Dictionaries, 2021 the International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2021) (Online), 2021/1/21.

〈薬学部〉

1. 盛愛[1]、**大越絵実加**[1]（[1]青森大薬）甘草配合漢方処方『桂枝湯』を基本とする処方に含まれるグリチルリチン酸量の検証 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

2. 今藍理[1]、梅村直己[2]、宮崎裕実[3]、**大越絵実加**[1]（[1]青森大薬，[2]朝日大歯，[3]防衛医大・外傷研）シスプラチン耐性を獲得した転移性口腔がんのナフトキノンを用いた細胞死誘導メカニズムの解明

3. 堀松星翔[1]、**佐藤昌泰**[1]、**幸坂英明**[1]、**三浦裕也**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1]青森大薬，[2]青森大 SDGs 研セ）高校生を対象とした薬学的な概念の形成を図る理科実験教材の開発 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

4. 網野佳奈[1]、堀松星翔[1]、**三浦裕也**[1]、**佐藤昌泰**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1]青森大薬，[2]青森大 SDGs 研セ）高校生に実施した体験型の薬学プログラム（アズノール軟膏の成分と調製）に対する学習効果の検証 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

5. 岡島未槻[1]、浅田彩季[1]、網野佳奈[1]、佐藤宥人[1]、野口日向子[1]、堀松星翔[1]、盛愛[1]、**多田智美**[1]、**三浦裕也**[1]、**佐藤昌泰**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1]青森大薬，[2]青森大 SDGs 研セ）

運動介入を伴う健康イベントが地域住民の意識向上に及ぼす影響 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

6. 柴田雅之[1]、堀松星翔[1]、盛愛[1]、今藍理[1]、網野佳奈[1]、岡島未槻[1]、**三浦裕也**[1]、**佐藤昌泰**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1] 青森大薬，2[2] にもとづいた北東北の特色ある天然素材の開発 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）
7. **多田智美**[1]、堀松星翔[1]、盛愛[1]、網野佳奈[1]、岡島未槻[1]、今藍理[1]、**三浦裕也**[1]、**佐藤昌泰**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1] 青森大薬 , [2] 青森大 SDGs 研セ）地方創生 SDGs（持続可能な開発目標）の取組における高校生の意識調査 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

8. **佐藤昌泰**[1]、堀松星翔[1]、**水野憲一**[1]、**三浦裕也**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1] 青森大薬 , [2] 青森大 SDGs 研セ）中学生を対象とした薬学的な概念の形成を図る理科（化学）実験教材の教育効果 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

9. **水谷征法**[1]、**大越絵実加**[1,2]、**多田智美**[1]、**佐藤昌泰**[1]、**三浦裕也**[1]、**水野憲一**[1]（[1] 青森大薬 , [2] 青森大 SDGs 研セ）高大連携プログラム「高校生科学研究コンテスト」参加者のアンケート調査からみる地方創生を目指す青森大学薬学部の役割 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会（広島）

10. **佐藤昌泰**[1], 堀松星翔[1], **幸坂英明**[1], **三浦裕也**[1], **大越絵実加**[1,2]（[1] 青森大薬 , [2] 青森大 SDG 研セ）高校生に実施した薬学プログラム（アズノール軟膏の成分と調整）による薬学への関心および動機づけの検証 2021 年 02 月 13 日 AOMORI SIX 合同学修研究発表会（青森市産官学連携プラットフォーム Web 開催）

11. 網野佳奈[1], 堀松星翔[1], **三浦裕也**[1], **佐藤昌泰**[1], **大越絵実加**[1,2]（[1] 青森大薬，[2] 青森大 SDGs 研セ）薬学的な理科（化学）実験教材による中学生の [主体的・対話的で深い学びに対する学習効果 2021 年 02 月 13 日 AOMORI SIX 合同学修研究発表会（青森市産官学連携プラットフォーム Web 開催）

12. 岡島未槻[1], 浅田彩季[1], 網野佳奈[1], 佐藤宥人[1], 野口日向子[1], 堀松星翔[1], 盛愛[1], **多田智美**[1], **三浦裕也**[1], **佐藤昌泰**[1], **大越絵実加**[1,2]（1 青森大薬，[2] 青森大 SDGs 研セ）コロナ禍における地域住民への健康イベントによる効果の分析 2021 年 02 月 13 日 AOMORI

SIX 合同学修研究発表会（青森市産官学連携プラットフォーム Web 開催）

13. 堀松星翔[1]、**佐藤昌泰**[1]、**福井雅之**[1]、**三浦裕也**[1]、**大越絵実加**[1,2]（[1] 青森大薬 , 2 青森大地域貢献セ）中高生を対象とした薬学的な概念の形成を図る化学実験教材の開発とプログラムの実践的検証 2020 年 09 月第 5 回日本薬学教育学会 Web 大会（帝京）

14. **佐藤昌泰**[1,2]、**金光兵衛**[1,2]、**天内博康**[1]、**三浦裕也**[1]、**大越絵実加**[1,3]（[1] 青森大薬、[2] 青森大薬学教育セ、[3] 青森大 SDGs 研究セ）高大連携プログラムの一環としての理科 (生物) 実験教材の開発 2020 年 09 月 12 日第 5 回日本薬学教育学会 Web 大会（帝京）

15. **多田智美**[1,2]、**佐藤昌泰**[1]、浅田彩季[1]、網野佳奈[1]、岡島未槻[1]、小川達也[1]、佐藤宥人[1]、相馬理佐[1]、邉見華菜恵[1]、**三浦裕也**[1]、**大越絵実加**[1,3]（[1] 青森大薬、[2] 青森大薬・薬学教育セ、[3] 青森大 SDGs 研究セ）青森県地域住民を対象としたフレイル対策のためのヘルスリテラシー調査 2020 年 09 月 12 日第 5 回日本薬学教育学会 Web 大会（帝京）

16. 櫻井誠、会津衣久美、大庭侑子、外崎麻莉那、**益見厚子**（青森大・薬・分子薬理学）3T3-L 1 脂肪前駆細胞を用いた東北産食品成分のインスリン感受性増強効果の検討 2020 年 6 月 第 86 回日本生化学会東北支部会　Web 開催　（福島）

17. **益見厚子**[1]、森山航平[1]、会津衣久美[1]、大庭侑子[1]、外崎麻莉那[1]（青森大・薬）チアゾリジン系薬物は 3T3-L1 脂肪前駆細胞の分化の過程で aP2 を介して PPAR γ 発現を低下させる 2021 年 03 月日本薬学会 141 年会 Web 開催（広島）

18. 櫻井誠[1]、会津衣久美[1]、大庭侑子[1]、外崎麻莉那[1]、永田芽育[2]、**上家勝芳**[2]、**益見厚子**[1]（[1] 青森大・薬・分子薬理学、[2] 青森大・薬・分子生物学）タカキビ抽出物は TZDs で誘導される 3T3-L1 脂肪細胞分化を促進するが脂肪細胞特異的因子の発現を抑制する 2021 年 03 月日本薬理学会 94 年会 Web 開催（札幌）

1. 高校生科学研究コンテスト（青森県、函館市 高校生約 100 名）（2020 年 12 月 共催 : 青森県教育委員会）動画 Web 開催

2. 青大 SDGs（薬）平内町椿プロジェクト：高校生 [総合的な探求の時間] と椿果実採集

2020 年 9 月 19 日（土）（青森山田高校特進クラス 18 名 (2 年生 8 名、1 年生 10 名)、薬学部生 5 名、大学教員 4 名、高校教員 2 名、平内町関係者 5 名）共催：平内町、採集場所：夜越山森林公園内

3. 青大 SDGs（薬）薬学部卒業研究発表会―高校生による見学・討論の参加―2020 年 9 月 2 日（水）高校生 [総合的な探求の時間]（青森山田高校特進クラス 25 名、高校教員 2 名）主催：青森大学薬学部

4. 青森県中高生薬剤師体験セミナー（2015-2020 年 8 月下旬（土・日）2 日間開催）
共催 : 青森県教育委員会、青森県中高生定員 80-120 名

5. 大館市中高生薬剤師体験セミナー（2015-2020 年 7 月下旬（土）開催）共催 : 秋田県大館市、中高生定員 30 名

6. 6 月 14 日：薬学部第 1 回 Web オープンキャンパス：薬学部フォトコンテスト、フィールド植物観察（教員 5 名、学生 3 名）

7. 7 月 18 日：薬学部第 2 回 Web オープンキャンパス：アスピリンの合成（教員 3 名、学生 4 名）、アズノール軟膏の成分と調製（教員 4 名、学生 5 名）

8. 8 月 9 日：薬学部第 3 回 Web オープンキャンパス：カフェインの単離（教員 5 名、学生 12 名）

【依頼講演】

2020 年 10 月 17 日　十和田労働福祉会館
新型コロナウイルスを正しく知り、正しく防ぐ
2020 年 12 月 11 日　青森県立五所川原高校・理数科
新型コロナウイルス感染症を出しく知り、正しく防ぐ

■川村仁

【講演】

1．2020 年 8 月 25 日　　中泊町立中里中学校防煙教室

2．2020 年 8 月 28 日　青森市立野内小学校薬物乱用防止教室
〃　青森市立横内中学校喫煙予防教室
3．2020 年 9 月 24 日　青森県立青森高等学校薬物乱用防止教室
4．2020 年 11 月 5 日　青森県立青森東高等学校薬物乱用防止教室
5．2021 年 2 月 12 日　青森市市立戸山西小学校薬物乱用防止教室
6．2020 年 10 月 26 日　西北五養護教諭会研修会
学校における新型コロナウイルス感染防止について
～実践的換気方法と消毒～
7．2020 年 11 月 2 日　青森市学校保健研究大会
学校における新型コロナウイルス感染症の感染予防対策について
～教室の換気と消毒方法～
8．2021 年 2 月 5 日　県立学校職員健康診断等に係る研修会
新型コロナウイルス感染症に係る学校環境衛生について

■小松 一

【第 46 回 東青クリニカルファーマシーカンファランスで特別講演】

2020 年 12 月 10 日 (木)、第 46 回東青クリニカルファーマシーカンファランスが、青森県病院薬剤師会及びトーアエイヨー株式会社共催で、青森県立中央病院及び青森市民病院（各病院スタッフ）、青森県観光物産館アスパム 8F（参加者）の各会場を WEB 上で接続し、約 50 名の参加で開催されました。

18:00 ～ 18:45 の一般講演 3 題に続いて、18:50 から約 1 時間、特別講演として「冬の漢方療法」という演題で、漢方の基礎理論とともに、主に呼吸器系疾患に頻用される漢方薬と COVID-19 に関する処方について、その処方内容と効果的な使い方を講演しました。

■佐藤昌泰，大越絵実加

「JT SDGs 貢献プロジェクト助成事業」あおもりハーブで野草カフェ [主催：青森大学観光文化研究センター] 身近な野草・有用植物を知るフィールドワーク～座学 演題「未病を知る～食べ物をととのえる～」（青森大学薬学部准教授 / 博士（地球環境科学）佐藤昌泰）
2020 年 9 月 21 日モヤヒルズ青大ヒュッテ　フィールドワーク補助：大越絵実加

■清水保明

【出張講義】

2020 年 7 月 15 日　青森市中央市民センター　女性大学 生涯学習

身近な微生物に対する感染予防

2020 年 7 月 16 日　青森市東部市民センター　寿大学・大学院 生涯学習

新型コロナウイルスの感染予防

【模擬授業】

2020 年 9 月 10 日　青森県立東高校

新型コロナウイルスを通して学ぶ、ウイルスと感染症の世界

学会活動など

大越絵実加

日本生薬学会　代議員　2018 年～

鈴木克彦

日本薬学会東北支部　幹事

益見厚子

日本薬学会代議員　2020 年～

青森大学ルネッサンス基金のご案内

趣意

平素より本学園に対し格別のご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学園は、大正７年創立者山田きみが青森市新町に裁縫塾を開いて以来、建学の精神「誠実、勤勉、純潔、明朗」を掲げ、地域の教育機関として幼児教育から高等教育まで、勉学のみならず、人格を陶冶する教育を今日まで一貫して行ってきました。創設以来の卒業生は、各機関合わせて約５万人を数え、これもひとえに皆様方のお力添えの賜物であると感謝しております。これからも新たな学園の歴史を創るため、創設者の建学の精神を教育の柱とし、未来へ向け飛翔を続けます。

一方、昨今の私学を取り巻く環境は少子化を迎え厳しさを増しておりますが、学園教職員一丸となって教育改革、経営の合理化等に最大限努力を重ねているところです。

つきましては、将来を担う学生に対して、より快適な学びの空間を提供し、より多くの優れた人材を社会に送り出すための支援策として、「青森大学ルネッサンス基金」の募金を募っておりますので、教職員、卒業生、保護者をはじめ、各界の皆様方のご理解、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、本学園へ寄付をして下さった方々には税制上の優遇措置（寄付者が企業等の法人の場合、寄付金全額が損金算入できます。）も認められておりますので、是非ともご活用いただきたいと存じます。

使徒

寄付金により、教育研究活動の活性化と充実、教育施設や設備等の整備を行い、そして、学園の経営の充実強化等に資することを目的に、本学の教育研究環境の継続的な充実を図ってまいります。

種別

個人の寄付金　3,000 円より
法人の寄付金１口　50,000 円より（なるべく２口以上でお願いします。）

税制上の優遇措置について

ご寄付は、個人の方は所得税法にて、法人・企業の方は法人税法による優遇措置が受けられます。

詳しくはこちら

青森大学
AOMORI UNIVERSITY

〒030-0943　青森県青森市幸畑2-3-1
TEL.017-738-2001　FAX.017-738-0143
Webサイト　https://www.aomori-u.ac.jp/